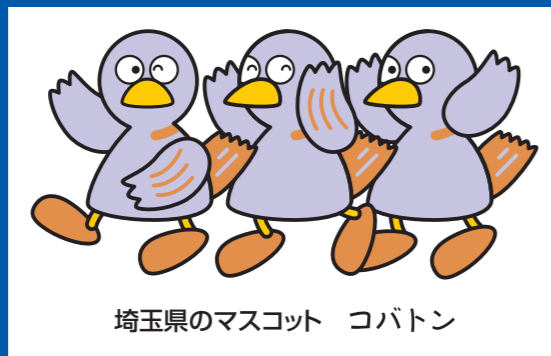


きらめく感性 つくりだす喜び

～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～

－ 〈2年次〉 －



きらめく感性 つくりだす喜び ～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～ 〈2年次〉



目 次

あいさつ	埼玉県美術教育連盟長	中 川 昇 次	2
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事	中 和 馬	3
	さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事	小 川 直 生	3
身体障害者福祉のための児童生徒美術展	特別賞作品より		4
郷土を描く児童生徒美術展	特別賞作品より		6
埼玉県児童生徒美術展中央展（昨年度の出品作品等）			8
記録Ⅰ	県造形教育大会 活動風景		9
造形教育研究大会基調報告	研究部長 山 田 一 文		11
造形教育研究大会	造形教育大会を終えて 大会実施委員長 久 松 丈 記		13
	開催要項		14
	大会役員		16
	Part 1 分科会の提案（第1～第4分科会）		18
	Part 2 各コースの提案（Aコース～Eコース）		34
記録Ⅱ	令和元年度埼玉県美術教育連盟役員		44
	令和元年度埼玉県美術教育連盟会則		46
	令和元年度事業概要		47

※注意…以下の項目については、経費削減のため42号からカットしました。

各項目については総会等の会議でご報告させていただきます。

埼玉県造形教育研究大会のあゆみ

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

全国造形教育研究大会のあゆみ

身体障害者福祉のための児童生徒美術展

郷土を描く児童生徒美術展

研究大会、美術展等の開催状況と今後の計画

関東甲信越静地区造形教育研究大会 都道府県別開催状況

令和元年度 市町村別学校数

埼玉県美術教育連盟の足跡を顧みて

表紙作品

鴻巣市立赤見台中学校 1年 齊藤 千桜

「 黄金のにわとり 」



子どものための授業づくりをめざして

埼玉県美術教育連盟長 中川 昇 次

令和元年度を締めくくるに当たり、埼玉県美術教育連盟の各事業に多大なるご尽力をいただいた役員の皆様と諸先生方に深くお礼を申し上げます。どの事業も充実した内容で終了することができました。ありがとうございました。

今年度を振り返りますと、第61回埼玉県造形教育研究大会を、8月6日・7日に、埼玉大学教育学部附属小学校を会場にして開催しました。研究主題「きらめく感性 つくりだす喜び ～未来をひらく授業づくり 『深い学び』の探求～」の下、授業実践研究会（1日目）と創造体験研修会（2日目）を実施しました。授業実践のどの分科会も、創造体験のどの研修コースも、これまでの研究大会の取組を基盤として、子どもに必要な資質・能力を明確にし、その育成に向けた授業の実践につながる内容でした。また、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行うための参考となるものでした。ご支援とご協力をいただきました、さいたま市教育委員会、運営を担っていただきました、さいたま市の先生方に深く感謝を申し上げます。この成果を活かし、本研究の一層の充実を図ってまいります。

展覧会におきましては、東松山市立松山第一小学校を会場に身体障害者福祉のための第61回埼玉県児童生徒美術展覧会、本庄市立本庄東小学校を会場に第54回郷土を描く児童生徒美術展中央展覧会が開催されました。また、埼玉県小・中学校等児童生徒美術展の地区展を県下10会場で、中央展を埼玉県立近代美術館で開催しました。どの展覧会も、多くの方々に来場いただき、子どもの豊かな感性と創造的な技能や表現を感じ取っていただけたものと確信いたします。主催団体、当該地区の教育委員会、運営いただいた関係の皆様、誠にありがとうございました。

今後は、研究主題に基づき、さらに指導方法の工夫や改善に取り組み、未来をひらく子どものための授業づくりをいっそう進めていくことが必要です。会員の先生方には、自主的な研修や校内研修等、様々な研修の折に、この点についても取り入れ、検討をしていただくことをお願いいたします。

結びに、本連盟の取組に多くのご指導とご協力を賜りました埼玉県教育局、さいたま市教育委員会を始め各市町教育委員会に深く感謝を申し上げ、挨拶といたします。



授業と学習評価の見直し

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 中 和 馬

埼玉県美術教育連盟「美連No.43」が刊行されますことを、心からお喜び申し上げます。貴連盟におかれましては、永年にわたり、埼玉県の造形教育の発展のために真摯に取り組まれ、多大な成果をあげられてきましたことに深く敬意を表します。

さて、小学校においては、来年度の新学習指導要領全面実施に向けて、年間指導計画の作成や題材・教材研究を推進いただき、中学校においては、令和3年度の全面実施を控え、「造形的な見方・考え方」を働かせる授業に向けた改善が行われていることと思います。7月に行われた埼玉県教育課程説明・協議会では、評価規準の作成方法や、評価場面等について協議をしていただきましたが、学習評価を行うに当たっては、「児童生徒の学習改善につながるもの」「教師の授業改善につながるもの」「必要性・妥当性が認められないものは見直しを行っていく」の3つの視点が大切になります。授業や年間指導計画作成を行う際には、十分にこの視点を考慮いただきますようお願いいたします。児童生徒の実態を踏まえた指導と評価が一体的に行われ、児童生徒が生き生きと試行錯誤しながらも自信をもって表現活動に取り組めることを願っております。

本年度も行われた貴連盟主催の埼玉県造形教育研究大会のテーマ『きらめく感性 つくりだす喜び～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探究～』は、これからの授業や評価の見直しを図っていく上でも大切な視点に基づいた研究であり、共通の視点で研究協議を深めることができる大変素晴らしい実践であります。今後も県内外に研究の成果を広く発信することにより、造形教育に携わる先生方にとって授業改善を図る上での指針になっていくことを期待しております。

結びに、貴連盟の研究や事業がますます充実、発展されますことを御祈念申し上げまして挨拶いたします。



児童生徒の思いを大切にした授業

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課
主任指導主事兼研究推進・振興係長 小 川 直 生

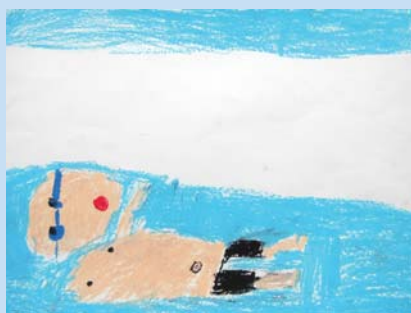
美連会報 No.43が刊行されますことに、心からお祝いを申し上げます。また、貴連盟が組織的に継続した教育研究活動を展開され、多大な成果を挙げておりますことに深く敬意を表します。

令和元年度、「第61回埼玉県造形教育研究大会」がさいたま市を会場として埼玉大学教育学部附属小学校で開催されました。参会者の校種や経験を問わず、授業づくりのための理念や手立てについて熱心に協議する姿や、子どもたちの心情や育まれる資質・能力を実感しながら創造活動を行う姿に、埼玉県及びさいたま市の図工・美術教育の未来を感じることができました。開催にあたり、御尽力いただいた多くの先生方に改めて感謝申し上げます。

さて、新学習指導要領の全面実施が目前に迫り、学習評価の在り方について周知されたところです。学習評価は、子どもたちの学習成果を的確に捉えて教師の指導改善を図るとともに、子どもたち自身の学習改善につなげることが重要です。子どもたちが資質・能力を発揮し、それを自覚できる評価を実現するためにも、教師は一人一人の思いを丁寧に把握し、認め、個々に応じた適切な支援がこれからも求められます。今後も、子どもたちの思いを大切にした指導と評価をお願いいたします。

結びに、貴連盟の活動の成果を広く共有していただき、埼玉県及びさいたま市の図工・美術教育の充実を願うとともに、貴連盟のますますの発展を御祈念申し上げ、挨拶いたします。

身体障害者福祉のための児童生徒美術展 特別賞作品より



ぷうる だいすき
川口・木曾呂小 1年 高津 輝人



せんろはつづくよどこまでも
羽生・岩瀬小 1年 川又 冬馬



およぎもとくいで 空もとべる
ぼくのにわとり
鴻巣・馬室小 2年 阿部 優稀



きゅうりが大きくそだつように
寄居・用土小 2年 金子 陸玖



うちゅうの中のメカそうち
川越・霞ヶ関東小 3年 渡邊 陽太



まわる深海魚とあそぶぼくたち
加須・元和小 3年 並木 優弥



ぐねぐね！海のワンダーランド
松伏・松伏小 4年 松井 花緒



深海に生える木
皆野・皆野小 4年 関口 純矢



月光
本庄・北泉小 5年 栗原 彰太



アートあふれる空想の街
吉見・東第二小 5年 高橋 愛結



美しい海と森をかけてゆく私
さいたま・辻小 6年 北村 真桜



けやきなみきの大木
蕨・中央小 6年 宇多村悠一



光を浴びて 時を経て
さいたま・大成中 1年 鈴木 里菜



上を目指す
加須・加須東中 1年 伊地知芽生



春の訪れ
深谷・幡羅中 1年 太田 詩乃



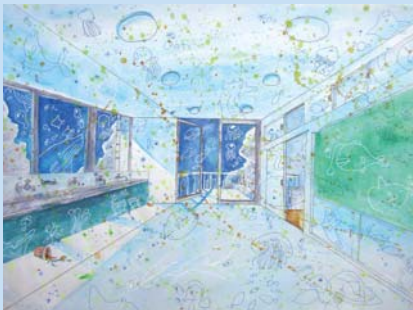
ともだち
本庄・本庄東中 1年 海上 雅代



夕方の体育館通路
嵐山・菅谷中 2年 三笠 舞子



時空を泳ぐリュウグウノツカイ!!
春日部・春日部中 2年 山口 莉紗



夏
坂戸・千代田中 2年 佐川 陽菜



私の夏
上尾・西中 2年 伊藤 優希



水 晶
熊谷・富士見中 3年 新井 雛里



姉妹でお参り
川口・戸塚西中 3年 成島 璃紗



家に帰ろう
春日部・大沼中 3年 齊藤葡之香



15の私
秩父・吉田中 3年 佐藤 優未

郷土を描く児童生徒美術展 特別賞作品より



ちちしぼりをたいけん

坂戸・大家小 1年 角館 恵瑞



でんしゃ

戸田・新曾北小 1年 田村晃太郎



オウムの子どもと
ジャングルであそんだよ

加須・礼羽小 2年 二見 葵



水しぶきがすごいこうざんだム

川越・大東小 2年 渡邊 大雅



消ゴムぶねでレッツGO

さいたま・城北小 3年 中村 光志



上ばきロケットでふしぎなうちゅうへゴー

鴻巣・広田小 3年 湯本 大智



光かがやく 秩父夜祭

秩父・西小 4年 井上 穂為



日本のでんとう黒田ししまい

深谷・花園小 4年 井口 蘭



夜の学校

本庄・北泉小 5年 芦澤菜々子



豊かな深谷

深谷・上柴西小 5年 田邊 百花



高城神社

熊谷・石原小 6年 桐原 希



天気雨

さいたま・海老沼小 6年 阿部 真広



想いの菖蒲公園

久喜・鷺宮東中 1年 宇都 桜子



夏の思い出

小川・東中 1年 鷹野 凛



安行遊歩道

川口・安行東中 1年 林 羽純



静かな夜

さいたま・土合中 1年 河端 大晴



精一杯の光

上里・上里北中 2年 高野 祥伍



かくれんぼ

さいたま・馬宮中 2年 本多 由夢



さみだれの星川通り

熊谷・富士見中 2年 岡田 真采



鳥居のある風景

横瀬・横瀬中 2年 関口 美里



鉄道博物館

川口・戸塚西中 3年 今村 俊太



一礼。

滑川・滑川中 3年 千代田花音



水雲鏡

上尾・上尾中 3年 長峰 圭汰



真夏の大会川

川越・名細中 3年 佐野 花琳

第59回埼玉県小・中学校児童生徒美術展 第11回中央展覧会

県内10地区の審査会で特に優秀だった平面作品100点、立体作品100点を集めました。

埼玉県知事賞

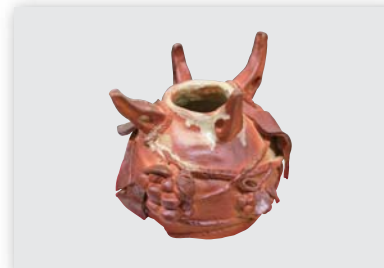
小学校低学年の部



小学校高学年の部

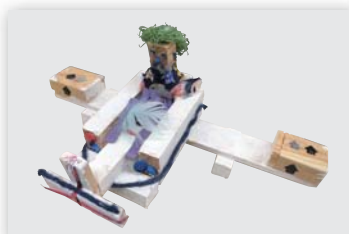


中学校の部



埼玉県議会議長賞

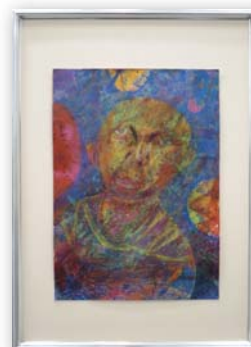
小学校低学年の部



小学校高学年の部



中学校の部

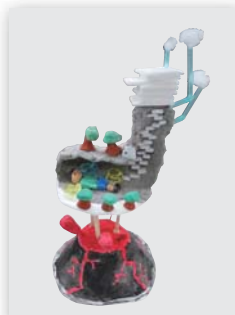


埼玉県教育委員会教育長賞

小学校低学年の部



小学校高学年の部



中学校の部



さいたま市教育委員会教育長賞

小学校の部



中学校の部



H31年2月16日・17日 於：埼玉県立近代美術館

第61回造形教育研究大会 part 1 <埼玉大学教育学部附属小学校> 令和元年8月6日(火)全体会&授業実践研究会

第1分科会【素材との対話】豊かな素材体験の実践例



第2分科会【自己との対話】新たな自分と出会う実践例



第3分科会【生活との対話】生活を豊かにする実践例



第4分科会【作品等との対話】新しい鑑賞教育の実践例

第61回造形教育研究大会 part2 <埼玉大学教育学部附属小学校> 令和元年8月7日(水) 創造体験研修会

Aコース 身近なものの価値再発見！



Bコース 見て、感じて、表す
～〇〇を見て、感じて描く～

Cコース さわってクレイ！



Dコース Enjoy! 美術の力で生活を豊かに楽しく!



Eコース 鑑賞の引き出し～誰でもできる鑑賞授業入門～





令和元年度 埼玉県美術教育連盟 研究主題

きらめく感性 つくりだす喜び 〈2年次〉

～ 未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求 ～

埼玉県美術教育連盟 研究部長 山田一文

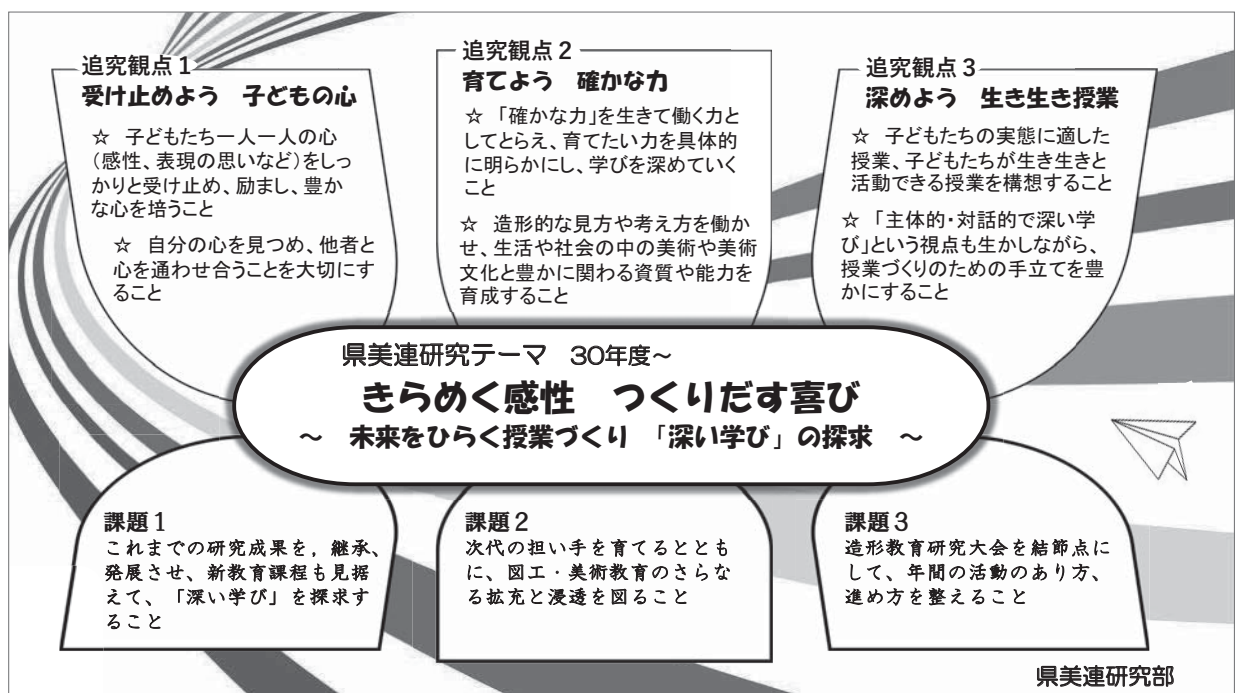
<課題>

- ① これまでの研究成果を継承し、新教育課程も見据えて、「深い学び」を探求すること。
 - ② 次代の担い手を育てるとともに、図工・美術教育のさらなる拡充と浸透を図ること。
 - ③ 造形教育研究大会を結節点にして、年間の活動のあり方、進め方を整えること。
- これまでの研究主題の変遷、造形教育研究大会の足跡などをふりかえるとともに、これからの図工美術教育に求められる課題を見通しながら、新しい研究主題を設定した。
- 研究主題については、前の研究主題「きらめく感性 つくりだす喜び」（めざす子どもの姿）を継続した。
- 副主題については、前の副主題「子どもが輝く 生き生き授業」（めざす授業の姿）を、さらに発展させる形で、「未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求」（めざす授業の姿と授業づくりの視点）と改訂した。
- これまでの県美連の研究を土台にしながら、未来に向けて、子どもたちのどのような資質・能力を育んでいくかを明らかにし、より豊かな授業を創造していきたい。「未来をひらく 授業づくり」には、そうした課題意識が示されている。また、新教育課程を見据え、「主体的・対話的で深い学びの実現」という授業改善の視点も生かしながら、私たちの授業実践や研究を改めて見直し、さらなる充実と深化を図っていくことをめざして、「『深い学び』の探求」とした。
- これまで掲げてきた「3つの追究観点」については、これまでの研究の成果を継承するために、それぞれの観点の関連なども示しながら、今後も継続することにした。

3つの追究観点

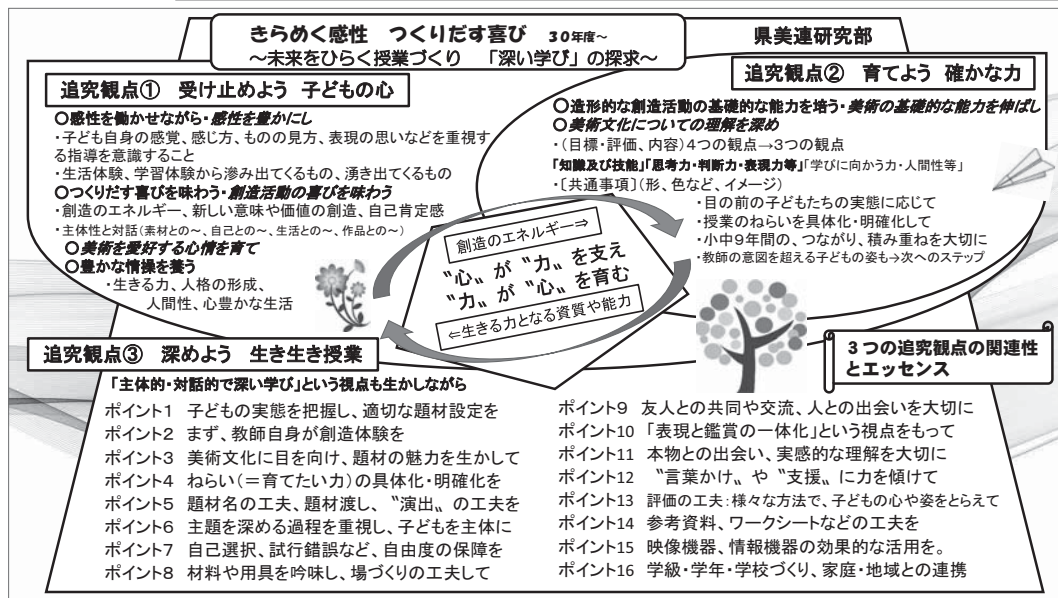
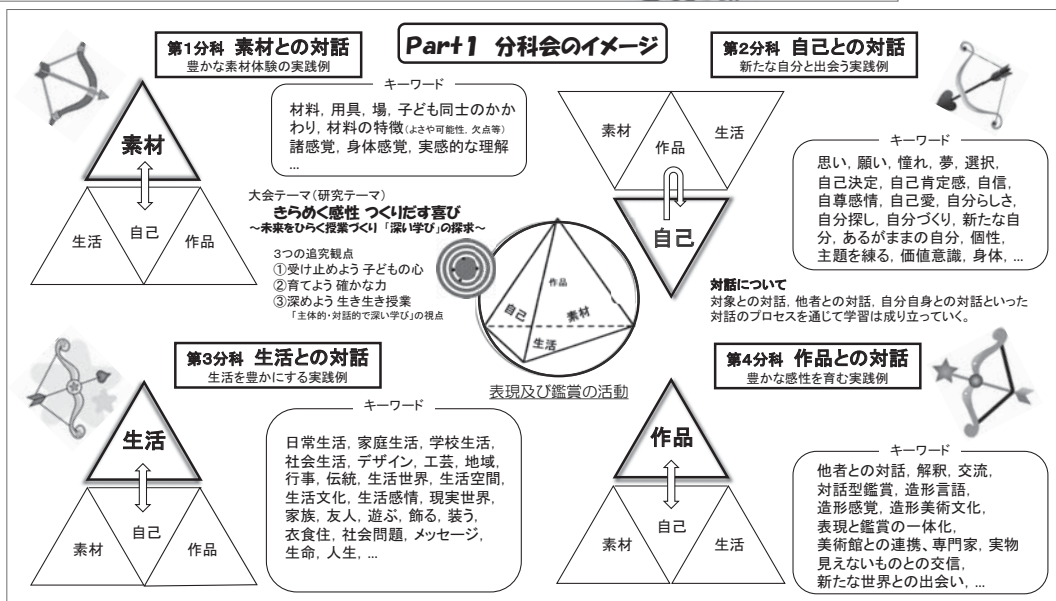
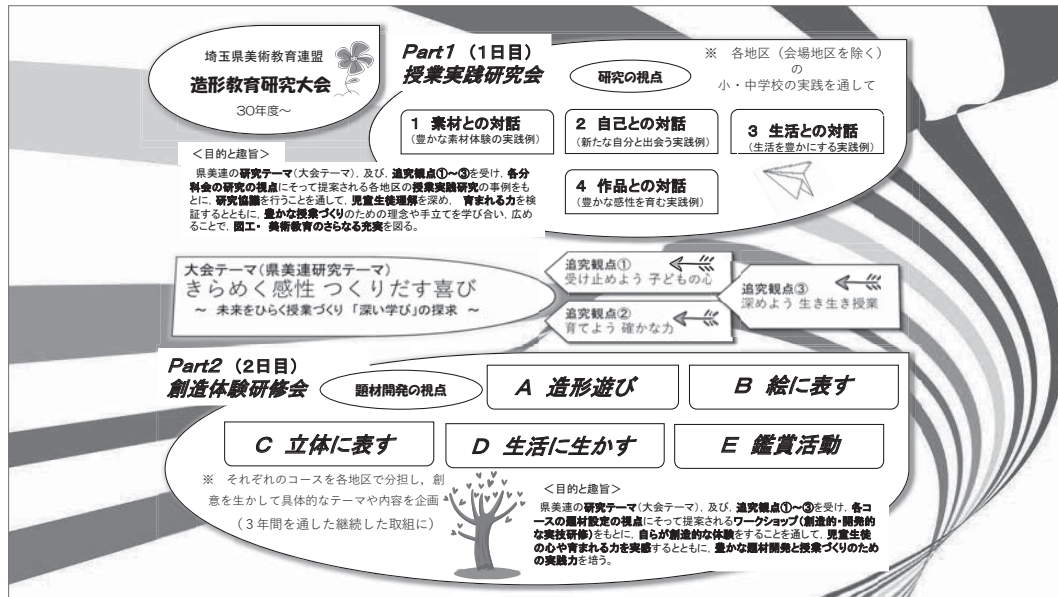
- ① 受け止めよう 子どもの心 ② 育てよう 確かな力 ③ 深めよう 生き生き授業

↳ ※「主体的・対話的で深い学び」の視点



埼玉県美術教育連盟「造形教育研究大会」について
 〈目的と趣旨〉

県美連の研究テーマ(大会テーマ)、及び、追究観点①～③を受け、各分科会の研究の視点にそって提案される各地区の授業実践研究の事例をもとに、研究協議を行うことを通して、児童生徒理解を深め、育まれる力を検証するとともに、豊かな授業づくりのための理念や手立てを学び合い、広めることで、図工・美術教育のさらなる充実を図る。



第61回埼玉県造形教育研究大会を終えて

大会実施委員長 久松丈記

令和元年8月6日(火)、8月7日(水)の2日間にわたり、第61回埼玉県造形教育研究大会を、埼玉大学附属小学校を会場として開催いたしました。昨年に引き続き『きらめく感性 つくりだす喜び～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～』の大会テーマのもと、参加された多くのみなさんによる、熱心な研究協議と、楽しくてためになる実技研修を行うことができました。

大会1日目の開会行事では、さいたま市教育委員会教育長 細田真由美様に来賓として御挨拶いただき誠にありがとうございました。その後の「Part1 授業研究会」では、4つの分科会に分かれて、質の高い実践発表と研究協議が行われました。

大会2日目は、5つのコースに分かれ、造形遊びや表現、鑑賞等を楽しみながら体験し研修を深めました。2日間の大会期間中は大変な猛暑となり、参加者やスタッフで体調を崩される方がおりましたが、附属小学校の保健室の方々に優しく対応していただき本当に助かりました。あのような猛暑の中、準備や運営に携わったスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。お陰様で、役員、スタッフを合わせると、2日間で延べ300名を超える参加者があり、多くの成果と充実感を残し、大盛況のうちに大会を終えることができました。

結びに、多大なご支援を賜りました埼玉県教育委員会をはじめ、美連事務局、役員、スタッフ、附属小学校の皆様には、改めて感謝申し上げ、第61回埼玉県造形教育研究大会を終えての挨拶といたします。本当にありがとうございました。

第 61 回埼玉県造形教育研究大会

大会テーマ **きらめく感性 つくりだす喜び**

～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～

日 時	令和元年 8 月 6 日 (火) 9:30 ～ 12:30 Part1 授業実践研究会 8 月 7 日 (水) 9:30 ～ 16:00 Part2 創造体験研修会
会 場	埼玉大学教育学部附属小学校
受 付	9:00 ～
参加費	2,000 円 (Part2 創造体験研修参加者のみ)
主 催	埼玉県美術教育連盟
後 援	埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会

◆ 第1日目 令和元年 8 月 6 日 (火) 全体会 & 授業実践研究会

分科会	テーマ	担当者	会場
第 1 分科会 【素材との対話】 豊かな素材体験の 実践例	光と影のよさを発見して、表現しよう おどる光、遊ぶかげ ～光と影のミラクルワールド～ (6年)	提案者 八潮・大瀬小 指導者 三郷・彦糸小 秋山 千幸 教頭 岡村 勝成 司会者 三郷・吹上小 記録者 吉川・中曽根小 佐藤 慶子 桐ヶ谷麻紀	2 学年教室
	15歳の自分を見つめて ～素材を生かした立体自画像～	提案者 鴻巣・鴻巣西中 指導者 鴻巣・赤見台中 荒井 幸子 大山 文子 司会者 鴻巣・吹上小 記録者 鴻巣・屈巢小 石塚 香代 庄田 薫	
第 2 分科会 【自己との対話】 新たな自分と 出会う実践例	思い出を形にしよう 自己を見つめる表現活動 やったーねんど よっしゃーねんど	提案者 ふじみ野・駒西小 指導者 所沢・荒幡小 小関子勝司 校長 鈴木勢津子 司会者 ふじみ野・大井小 記録者 ふじみ野・駒西小 新家子美知子 杉浦ゆうこ	3 学年教室
	自分を見つめて ～自己との対話～ 未来を描こう！ ～キュビズムに挑戦～ (中2)	提案者 深谷・深谷中 指導者 熊谷・玉井小 井上 暢之 校長 大谷 裕紀 司会者 深谷・岡部中 記録者 深谷・上柴中 根岸 由紀 小林志津香	
第 3 分科会 【生活との対話】 生活を豊かにする 実践例	“共同でつくりだすアート空間” 学校の生活空間を色どる造形遊び 6年生を送ろう いつもの場所に特別な思いをのせて	提案者 本庄・本庄西小 指導者 本庄・北泉小 小泉 亘 校長 岡村 和美 司会者 美里・東児玉小 記録者 本庄・本庄西中 小林 玲子 肥高 雅美	5 学年教室
	『Fairies of East』 ～発見！東中の妖精妖怪～	提案者 東松山・東中 指導者 川越・東中 二木 洋明 校長 田中 晃 司会者 嵐山・七郷小 記録者 鳩山・亀井小 分須 健太 三戸 知子	

第4分科会 【作品との対話】 豊かな感性を育む 実践例	作品との対話を活性化し、 思いをのびのびと表現する児童の育成 ～発想力を引き出す図画工作科の研究～ ・「ひみつのたまご」(2年) ・「へんてこ山のふしぎなお話」(3年) ・「音から広がる世界」(6年)	提案者 和光・新倉小 指導者 戸田・新曽北小 松田 英里 校長 山根 淳一	6 学 年 教 室
		司会者 和光・第五小 記録者 和光・北原小 照井 一枝 小林 美咲	
	感じる・楽しむ・対話する ～短時間の積み重ねによる鑑賞活動の可能性～ ～プチ鑑賞クイズに挑戦しよう(中2)	提案者 久喜・栗橋東中 指導者 久喜・久喜東中 伊藤 順 校長 寺井進一郎	
		司会者 久喜・鷺宮西中 記録者 蓮田・黒浜中 鳥海奈津子 野口 照子	

◆ 第2日目 令和元年8月7日(水) 創造体験研修会

コース		テーマ	持ち物	定員	会場
A コース	造形遊び	身近なものの価値再発見！ 身近な材料の素敵を皆で再発見。空間を感じ、点、線、面を意識してつくりだす造形遊びをたのしみましょう。スケッチブックに学びの足跡を付けて可視化を目指します。	動きやすい服装、材料などを持ち帰る大きめの袋	25名	図工室
B コース	絵に表す	見て、感じて、表す ～〇〇を見て、感じて描く～ ものの見方や考え方を深め、絵の具、クレヨン、カラーペンなど様々な画材を使って、自分らしい表現を追求します。2学期以降の授業に役立つ研修を行います。	エプロン、よごれてもよい服装、作品を持ち帰る袋、各自が用意できる画材	30名	4学年教室
C コース	立体に表す	さわって クレイ！ 特徴の違う紙粘土。たくさん種類があるけれど、どれを使ったらいいの!? 1度は思うけれどもなかなか機会がなくて困っているそんな先生方におすすめです。	エプロン、筆記用具、ふき取り用タオル(2枚以上) 水彩orアクリル絵の具 作品収納袋(B4以上)	20名	2学年教室
D コース	生活に生かす	Enjoy!! 美術の力で生活を豊かに楽しく！ 身近にあるものに美術の力を加えて、生活を豊かにする体験をします。キーワードは、“Enjoy!!”うれしくなったり、楽しくなったり、ワクワクしたり、ものの見方や考え方が楽しく変わる提案をしたいと思います。	はさみ、カッター、エプロン	30名	1学年教室
E コース	鑑賞活動	鑑賞の引き出し ～誰でもできる鑑賞授業入門～ 「鑑賞授業の引き出しを増やそう」をテーマに、様々な鑑賞ツールを使った体験をします。対話型鑑賞の模擬授業や映像を用いた鑑賞の活動など、グループによる演習を中心に行いますので、鑑賞の指導に不安を感じている方も安心してご参加ください。	筆記用具、子供の作品または作品の画像を印刷したもの	35名	会議室兼スタジオ

大会役員

大会実施委員

連 盟 長	中川 昇次	さいたま市							
副連盟長	丹後 雅博	さいたま市	森田 直樹	上尾市	武藤 篤美	坂戸市	濱名 博昭	本庄市	
	中島 高広	加須市							
監 事	伊藤 貴重	越谷市	伊藤 政久	川口市					
研究部長	山田 一文	戸田市							
編集部長	板橋 利行	川口市							
事業部長	久松 丈記	さいたま市							
事務局長	廣田 和人	埼玉大附属小							
幹 事	〔本部役員事務局〕								
	坂井 貴文	埼玉大附属小	安藤 健太	埼玉大附属小	小西 悟士	埼玉大附属中	吉田 真梨	埼玉大附属中	
	〔本部役員事務局会計〕								
	日高 大介	さいたま市							
実施委員長	久松 丈記	大宮北小							
副実施委員長	丹後 雅博	大宮西小	金子 宜史	上落合小	寺内 啓容	浦和中	石田 成夫	中尾小	
	藤本 往弘	南浦和小	正田真由美	七里中	中込 光統	大谷口小	村田 寿一	島小	
大会事務局	田島 均	辻小	脇元 重彰	蓮沼小	日高 大介	上落合小	依田 淳子	栄小	
	石井ゆかり	七里小	蓮見 隆代	浦和大里小	神野藤明美	大成小	駒込 祥子	善前小	
	野島 由美	指扇北小	吉田 桂子	東大成小	磯部 繁征	片柳小	富田 紀子	上小小	
	山本多津子	田島小	横藪 春	辻南小	梅本 恵未	慈恩寺小	河村 智佳	下落合小	
	田島 志保	日進小	真田 幸	大宮東小	鈴木 美保	美園小	池田 真人	大谷場東小	
	山口あやの	大宮南小	斉藤 寛通	馬宮東小	彈塚 郁枝	大谷場小	加藤 晶子	上里小	
	波多野優子	沼影小	川島 瑠菜	大牧小	棚山 純子	原山小	加藤 美昂	土合小	
	石川公一朗	谷田小	本多 昌子	鈴谷小	徳世 翠	辻小	和久井美里	大門小	
	菅野 愛	植水小	前田 史子	尾間木小	内田 英理	三室小	大澤 琴美	大砂土東小	
	白岩 智哉	大砂土東小	長尾 優子	文蔵小	高野 幸代	浦和別所小	佐々木利枝	南浦和小	
	白井 理恵	大戸小	石田 麻衣	道祖土小	藤井 美帆	西浦和小	嶋 美穂	中尾小	
	加藤 裕有	芝原小	石黒 暁子	指扇小	神田 祥子	与野八幡小	羽鳥麻依子	蓮沼小	
	荒川 魁	新開小	竹内 梨乃	与野南小	小山田有希	大宮別所小	福田 尚美	馬宮西小	
	大隅由利奈	大谷口小	圓明亜希子	日進北小	宮崎 彩果	与野西北小	今井雅留子	中島小	
	宮出 知子	与野本町小	井上 夢子	つばさ小	稲葉 順子	向小			
	高藤 友輔	大宮南中	鳥山多加子	上大久保中	佐藤 博	与野南中	八木橋麻子	慈恩寺中	
	豊田 純子	大成中	川幡木綿子	三室中	山口 史貴	大宮北中	山岸 啓介	指扇中	
	小口 稚聡	与野東中	松村 理恵	岸中	中村 晃	大谷口中	神宮 綾子	柏陽中	
	小林 幸子	三橋中	大石 真実	内谷中	高橋 理栄	大谷中	大久保麻衣	植水中	
	春日 達也	美園南中	村越 豊	馬宮中	後藤 恵奈	大谷場中	猪原 幸	原山中	
	渡辺 麻美	尾間木中	牛尾 亜矢	南浦和中	谷口 恵	八王子中	山崎 努	土屋中	
	伊勢田美穂	白幡中	小野寺真季	宮前中	木村 麻耶	三室中	高見 藍	大宮西中	
	森 具視	与野東中	鈴木 香織	与野西中					
研 究 部	山田 一文	戸田市	田野 順子	北本市	榎本 浩子	深谷市	古屋美恵子	深谷市	
	石塚 香代	鴻巣市	平栗 彰子	春日部市	石井ゆかり	さいたま市	鈴木 彩子	坂戸市	
	森田 真以	さいたま市	服部 方暢	新座市	井手尾晋一	狭山市	根岸 由紀	深谷市	
	中 温子	白岡市	高野 敏	所沢市	小山 健	松伏町	関口 竜平	上尾市	
	星野 哲郎	皆野町	安藤 栄信	川越市	大山 文子	鴻巣市	山口 愛	春日部市	
	二木 洋明	東松山市	長峯絵里子	桶川市	甘楽 紘子	行田市	尾見 拓哉	上尾市	
	大島 伸夫	上尾市							
編 集 部	板橋 利行	川口市	本多 啓介	草加市	杉原 優華	和光市	宮澤 直美	新座市	
	阿武 智子	吉川市	杉浦ゆうこ	ふじみ野市	秋山 真吾	さいたま市	鈴木 利枝	さいたま市	
	伊藤 裕介	三郷市	濱田 征臣	戸田市	西宮 淳	毛呂山町	金山 智子	川口市	

分科会スタッフ

○第1分科会	秋山 千幸	八潮市	岡村 勝成	三郷市	佐藤 慶子	三郷市	桐ヶ谷麻紀	吉川市
	荒井 幸子	鴻巣市	大山 文子	鴻巣市	石塚 香代	鴻巣市	庄田 薫	鴻巣市
○第2分科会	小凧子勝司	ふじみ野市	鈴木勢津子	所沢市	新家子美知子	ふじみ野市	杉浦ゆうこ	ふじみ野市
	井上 暢之	深谷市	大谷 裕紀	熊谷市	根岸 由紀	深谷市	小林志津香	深谷市
○第3分科会	小泉 亘	本庄市	岡村 和美	本庄市	小林 玲子	美里町	肥高 雅美	本庄市
	杉崎 夏海	東松山市	田中 晃	川越市	分須 健太	嵐山町	三戸 知子	鳩山町
○第4分科会	松田 英里	和光市	山根 淳一	戸田市	照井 一枝	和光市	小林 美咲	和光市
	伊藤 順	久喜市	寺井進一郎	久喜市	鳥海奈津子	久喜市	野口 照子	蓮田市

コース別スタッフ

A コース	才津 純子	さいたま市	飛知和朋子	さいたま市	高橋 太朗	さいたま市	曾根田 瞳	さいたま市
	皆川 純子	さいたま市	藤田多恵子	さいたま市	小山 清香	さいたま市	野澤 朋子	さいたま市
	星野多賀子	さいたま市	鈴木 利枝	さいたま市	坂口 遙子	さいたま市	成田 佳織	さいたま市
	藤井 晴菜	さいたま市	尾竹 朝子	さいたま市	井藤 楓	さいたま市	遠山 聡子	さいたま市
	佐野絵梨夏	さいたま市	郡司 藍子	さいたま市	齋藤 真希	さいたま市		
B コース	羽鳥 弘次	川口市	梅津 一義	川口市	加藤美由紀	川口市	植村江身子	川口市
	宮本 優子	川口市	吉田 賢宏	川口市	黒田 智子	川口市	元田 博文	川口市
	金山 智子	川口市	久田 恵理	川口市	佐藤 哲也	川口市	田中 秀樹	川口市
	佐藤 園絵	川口市	山屋 仁	川口市	石井 葉子	川口市	鈴木久美子	川口市
	久野 司	川口市	佐藤 順子	川口市	田島 歩	川口市	長澤 茜	川口市
C コース	清水 裕子	深谷市	根岸 由紀	深谷市	斉藤 優美	深谷市	榎本 浩子	深谷市
	矢板橋克基	深谷市	宮下菜々実	深谷市	栗原 慶多	深谷市	杉田 梓	深谷市
	宮田奈都子	深谷市	小暮 明彦	深谷市	峯岸 潤子	深谷市	赤石 香子	深谷市
	横塚久美子	深谷市	濱名智恵子	深谷市	安田 基	深谷市	武藤 和美	深谷市
	谷脇由利奈	深谷市	小丸 文香	深谷市	古屋美恵子	深谷市	中村 朋美	深谷市
	萩原 京子	深谷市	田島美知子	深谷市	井上 暢之	深谷市	大竹 清乃	深谷市
	田島かおり	深谷市	小林志津香	深谷市	篠崎 治美	深谷市	中澤 信宏	深谷市
D コース	鈴木 彩子	坂戸市	佐野 仁	入間市	児島 綾子	狭山市	戸口 道代	入間市
	和田 華子	所沢市	及川美沙子	入間市	高野 敏	所沢市	二木 洋明	東松山市
	川崎 真美	東松山市	中村 愛	滑川町	塩沢 京子	吉見町	和気智恵美	吉見町
	三戸 知子	鳩山町	池田恵理子	吉見町	贄田 朱梨	東松山市	柳澤 京子	川島町
	古橋 咲絵	川島町	脇谷 和夫	吉見町	杉崎 夏海	東松山市	阿形 寿和	吉見町
E コース	中島 高広	加須市	松田 洋子	加須市	佐怒賀筑美	加須市	飯田由梨乃	加須市
	武正美智子	加須市	五十嵐友子	加須市	田村 幸子	加須市	村山 佳子	加須市
	中村 優花	加須市	高橋有美子	加須市	吉澤 友希	加須市	植田 晴香	行田市
	吉田 夏絵	行田市	萩野 哲子	羽生市	田高 一洋	羽生市	牛久 智美	加須市
	小島 容子	加須市	岩淵 優子	加須市	鈴木 聖乃	加須市	五味 愛子	加須市
	川久保秀美	羽生市	稲垣 直人	羽生市	瀬田真希穂	羽生市	福知 秀幸	羽生市
	甘棠 紘子	行田市	井手 健仁	行田市				

会場案内図



- 埼玉大学教育学部附属小学校
〒330-0061
埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-9-44
* 上記施設への問い合わせは御遠慮ください。

◆交通アクセス◆

- ・ JR京浜東北線
「北浦和駅」西口下車 徒歩15分
- ・ JR高崎線・宇都宮線
「浦和駅」西口下車 徒歩20分
※バスを利用する場合 大久保浄水場
行き(浦桜13等)乗車・市役所北口
下車 徒歩1分
- ・ JR埼京線
「南与野駅」、もしくは、
「中浦和駅」下車 徒歩25分

※当日、雨の天候でなければ、仲町小学校の校庭を駐車場として利用できます。
雨の場合は、お近くのコインパーキングをご利用ください。

第1分科会	素材との対話
小学校6年生 題材名「おどる光、遊ぶかげ」 ～光とかげのミラクルワールド～	

1 趣旨の説明

本題材は、電球やLEDライト、プロジェクターなどを使って、光を通したり反射したりする材料を組み合わせ、おもしろい光や影の世界をつくり出す造形遊びの活動である。児童が材料や場所、空間などの特徴を関連させながら活動できるように、活動場所を「ミラクルワールド」に変えるというテーマのもと活動を行った。自分たちが造形的に手掛けることで、見慣れた場所や空間を新しい場所や空間につくり変える事の面白さを感じられるようにした。児童一人一人がのびのびと活動できるように、材料や光源は十分に準備し、児童が材料や場所と関わりあう時間を十分にとり、友達との対話から生まれる新たな発想を大切に、「つくり、つくりかえ、つくる」という学びの過程を児童自身が実感できるようにした。

2 素材・材料・用具の紹介

素材は光と影をつくるものである。その材料として、懐中電灯やLEDライト・ブラックライト・プロジェクターなどの光源、鏡・CD・アルミホイルなどの反射材、その他、布・暗幕・蛍光塗料・色セロハン・送風機・水槽・ホワイトボード・ビー玉・ビニル傘・炭酸飲料・たまごパックなど光を通す物と、影を映すものなど多岐にわたる。教師も材料を準備したが、グループごとに課題にあった材料を自分たちで集めた。

3 活動内容・活動過程

追究観点① 「受け止めよう 子どもの心」

子どもたち一人一人には自分のやりたいことや思いがしっかりある。その思いをしっかり受け止めつつ、他者と心を通わせることにより、豊かな心を培う。

追究観点② 「育てよう 確かな力」

たくさんの素材に触れ試行錯誤しながら、光と影の特性や、素材との相互関係などの知識を身に付ける。造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる資質や能力を育成する。

追究観点③ 「深めよう 生き生き授業」

子どもたちの実態に適した授業、子どもたちがいきいきと活動できる授業を構想し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために授業改善を行う。子どもたちが「つくり・つくりかえ・つくる」ことを楽しみ、自分の手でつくり上げていく喜びを感じられるようにする。

4 活動過程

(1) 題材について知り、光の当て方によって美しく変化する透過光や影の美しさに気付く。

- ・安全面の約束
- ・グループ決め

(2) 光源と集めた材料を使って、グループで光と影をつくりながら、材料の特徴を試す。

- ・中間鑑賞会

(3) これまでの活動を生かして、材料や光源、場所などを考えながら、グループで活動を広げて表現する。

- ・相互鑑賞会



5 まとめ

自在に変化する光と影。子どもたちは素材と対話しながら試したり、見つけたりして造形的な表現の美しさを追求することができた。高学年の造形遊びというと敬遠されがちであるが、小学校では自然にあるものから人工物まで様々な素材と出会う。小学校で素材を味わい尽くすことが、中学校での豊かな感性へつながると感じた。

秋山 千幸 (八潮市・大瀬小)

6 協議

- ・タブレットを使用したということだが、どのように購入したのか。
→タブレットは、PTAが購入したものが学校に10台あるが、昨年度からパソコンルームのパソコンもすべてタブレット型になり、1人1台ずつ使うことも可能である。今回は、活動も集中して行えるよう、グループに1台とした。子どもたちは、動画の操作も慣れていった。グループに分かれてしまうと活動の様子が見られないので、造形遊びにおいては、タブレットを使用しての発表は、有効であった。
- ・この取組の時間配分はどうなっているか。
→3時間扱い。前週1時間で、学校にあるものを使って光で遊んだり、グループ分けをしたりした。本時は2時間続きで行った。材料集めの相談などは、授業時間外でグループごとに行った。
- ・材料集めに関しては、どのように指導したのか。
→光を通すもの、通さないものという理科の学習と結びつけながら投げかけをした。すでにグループに分かれていたので、蛍光塗料が入っているもの、反射するものなど、それぞれのグループに合った材料を集めることができた。持ってきたものの中には、失敗例もあったが、持ってきたいもの、試したいものをたくさん持ってきていた。教師の方でも図工室に材料をストックし、集めた。
- ・5つのグループのテーマはどのように決めたのか。
→3時間しかなかったので、光でできることということで5つのテーマを教師が設定した。その後、子どもたちがやりたいテーマごとにグループに分かれた。
- ・一人一人の実態を把握しながら、6年生という発達段階に合った題材であった。鑑賞の場面では、タブレットだけではなく、生の光をみんなで共有することはできたのか。
→授業時間の最後に、美しいと思う瞬間をグループごとに発表し、見合う時間を設けた。

7 指導講評

(三郷市立彦糸小学校 教頭 岡村 勝成)

- ・造形遊びは、児童の資質・能力を育成する意図的な学習でなければいけない。今回の授業は、どのような力を付けさせたいか、そのためにどのような準備、空間が必要かを教師が理解し、それを子どもたちがいかにも発見したようにもっていく教師のマネジメントがすばらしかった。
- ・高学年の内容である、材料や場所の特徴をもとに子どもたちが生き生きと造形活動をしていることが表れていた。さらに、子どもが個で考えたことを出し合うことからグループで発想を広げ、また自分にフィードバックしていくこともできていた。
- ・普段の授業から、材料を探す目的やねらいをしっかりと提案していることがうかがえる授業であった。
- ・グループ活動が効果的であった。友達との対話の中で自分のイメージを広げていったり、異なる楽しさを味わったりと、共同で活動するよさが表れていた。
- ・「ミラクルワールド」という題材名がよかった。それぞれのグループごとにテーマパークをつくっていくような、見慣れた空間を新しく作り変えるおもしろさを感じられる。
- ・これからの造形遊びは、友人や他の人との関わりを重視し、課題の発見、解決に向けた主体的・協働的な深い学びでなければならない。
- ・造形遊びのキーワードは「共感」である。人との関わりの中でよさに気づき、さらによさを伸ばしていく活動であることから、「協感」「響感」と言い換えることもできる。このことが授業に生かされ、資質や能力が育成されればよい。
- ・生活や社会と豊かに関わるという点においても造形遊びの果たす役割は大きく、デジタルアートやプロジェクションマッピング、インスタレーション、アースワークなどが社会の中のアート作品として挙げられる。造形遊びは、大人になっても社会の中でも変わらず存在しているものだと言える。

第1分科会	素材との対話
中学校3年生 題材名『『等身大の私』 15歳の自分をみつめて ～素材を生かした立体自画像～』	

1 趣旨の説明

3年生が日頃抱えている悩みや不安を「素材の力」を借りて乗り越え、意欲を高めて取り組めるようにしたいと考えた。

素材に触れ、工夫しながら表現していく過程で、実感をもって現実の自分自身と向き合うことができる。他の人には見せたくないような、情けない自分も、試行錯誤して友達と共働して表現するうちによさを発見し、つくりあげる達成感を感じることで、自分自身に自信をもてるようになってほしい。そして、そのような自信を積み重ねていく中で、自分や他者の思いを大切にすることや、身の周りの美しさやよさに気付いていけるようにしたい。

2 素材・材料・用具の紹介

骨組…針金（アルミ）

骨組に組み合わせていくもの（新聞紙・金網・ラップ・セロファン・紙粘土・布・紐・アルミホイル）※生徒の構想や扱いやすいものによって、素材の組み合わせは変化する。

用具（ペンチ・はさみ・接着剤・両面テープ・テープ類・絵の具）

3 活動内容

追究観点① 受け止めよう子どもの心

・生徒がどのような悩みや不安を抱えているのか知る。4つの窓による自分の気持ちの分析

追究観点② 育てよう確かな力

- ・理科の「生物」分野とのつながり
- ・骨組みづくりを通して人体の仕組みを知る。
- ・素材を扱う中で、手の巧緻性を高める。
- ・彫刻の基礎知識

これらを自分の心情と向き合いながら表現できる。

⇒表現する（つくる）ことによって、自分に自信をつける。

追究観点③ 深めよう生き生き授業

- ・生徒の実態から行う題材設定
- ・題材の魅力
- ・毎時間の授業のねらいの明確化
- ・意欲を高める演出
- ・素材を自分で選ぶから試行錯誤できる。
- ・材料や道具の特徴を生かす。

自分にもできるのではないか、という見通しをもてる。

心情に合った素材を選択できる。

素材の扱いを工夫することによって、様々な表現が期待できる。

- ・友達との交流場面
- ・鑑賞

友達とコミュニケーションがとれる。

4 活動過程

- (1) 詩や立体造形の写真の鑑賞を通して、等身大の私について考える。
- (2) 自分自身について考えテーマをみつける。
- (3)(4) 人の体の仕組みを理解して骨組をつくる。
- (5)～(7) 自分材料の組み合わせを考え、



等身大の自分を表現していく。



- (8) 作品紹介（鑑賞）

5 まとめ

自分の体実際に触れ、確認しながら針金で骨格づくりにのぞんでいた。自分の心情表現にあった素材を選択し、友達と意見を交わし合う中で表現を試行錯誤する姿がみられた。限られた授業時間数の中で充実した活動をするために、教師の素材研究が重要である。自己理解の深まりを伝ええるような発表・鑑賞の仕方も工夫が必要である。

荒井 幸子（鴻巣・鴻巣西中）

6 協議

- ・保管方法はどのようにしていたか。また、展示方法は。
→作品が大きいので、二つある美術室の一つを作品置き場にした。また廊下にラインを貼り、保管スペースとした。展示方法は、廊下に保管している状態を工夫して展示するようにした。
- ・追究観点①では、何色にも染まる自分を表現するために中が見えるような透明な素材（セロファン）を使ったところから、素材を生かした自己表現ができていたと思う。
- ・大きな立体であり、実際に材料を自分の顔や体に当てて作っているのだから、そこから立体感、空間、材質感、バランスがよく表現されている。写実的な表現というより、自分をしっかりと見つめることができたと思う。
- ・理科の学習を生かしているのだから思考力も高まっていて、作品づくりに生かされていたと思う。
- ・追究観点③では、素材がたくさんあるということから、小学校の時に身の周りのものを集めてつくってきた経験が、今回にも生きているのではないか。また普段から素材を大事に扱って授業をしていることがわかる。
- ・失敗しても繰り返すことができ、試行錯誤できるところがよかった。友達同士で声を掛け合って、それを参考にしながら、やり直しができて自信にもつながっているのではないか。
- ・指導として抽象表現とリアル表現をどこまでねらっていたのか。そのバランスはどのように考えていたのか。
→頭だけではなく今回のように上半身をつくることで表情を付けやすくなりよかったと思う。

7 指導講評

(鴻巣市立赤見台中学校 教諭 大山 文子)

- ・多感な中学生の思いを引き出すために谷川俊太郎の詩「うつくしい」を導入に使ったところがとてもよかった。詩の中にある「人間の喜び、悲しみ、怒り」等を自分の心に照らし合わせて制作させることで追究観点①に迫ろうとしたところに授業者の生徒に対する温かな思いを感じた。
- ・いきなり抽象表現へというのは生徒にとっては難しいところもあるので、今回のようにある程度自分の姿を残しつつ、上手い下手にとらわれない精神性を重視した作品となったのは荒井先生の指導のよさであると言える。
- ・生徒自ら用意した材料が多く感心した。これは小学校時代も含め、自分自身で考え、身の周りから材料を集めるという既習学習がよく生かされていた結果である。
- ・試行錯誤できることが表現を模索する上でとてもよかった。多様な教科との関連を図りながら学習を進めてきたこと、そして自分はこういう作品をつくっていくんだという見通しを制作過程の中から見つけられたことは、「試行錯誤」が生かされた場面であると言える。
- ・追究観点③の工夫を通して、自分の気持ちを表現できる力が高まり、友達との関わりの中でいろいろなことに気付きながら制作することがよくできていた。毎時間のめあての明確化や学習の見通しをもたせる等は教師として当たり前と思われがちだが、丁寧に積み上げていくことが実は難しく、そしてとても大切である。
- ・「自分の分身」というこの作品を家庭に持ち帰った時に、きっと親子が向き合い会話が増えたり、学校と家庭、地域との連携も生まれたりしていくのではないだろうか。そんな素敵な可能性を含んでいるこの取り組みは意義深いものである。

第2分科会	自己との対話
小学校2年生 題材名「やったーねんど よっしゃーねんど」	

1 趣旨の説明

本題材は、日常生活の中で嬉しかったことや楽しかったこと、ドキドキした場面を思い浮かべ、立体に表すことをねらいとしている。楽しいことや嬉しいこと、心が動いた時に、友達、教師に聞いてもらうことは、自分の生活を肯定的に見つめ直すことにもつながり、自分で表したいものを見つけやすくなるだろう。もう一つの特徴は、粘土のもつ可塑性にある。表現の行き戻りがしやすいことから、「つくる、つくりかえ、つくる」を繰り返し児童が自ら学びを深めていくことができる。

2 素材・材料・用具の紹介

児童の発達段階から油粘土を使用した。また、事前の活動からつくりたい作品を教師が予想し、粘土だけで表すことが難しいものには補助材を準備しておいた。(ストロー、予備の粘土、ネットなど)

3 活動内容

○追究観点① 受け止めよう子どもの心

『児童の発想を認め、児童の思いに共感し、活動を見守る』

毎時間の授業の中で、児童の声に耳を傾ける。児童と一緒に制作過程を楽しみ、一人一人の感性を受け止めて励ます。児童の活動を見守り、自分に合った方法を見つけられるように時間の確保をする。

○追究観点② 育てよう確かな力

『自己表現を育て、身に付けたい力の明確化』

交流のできる場づくりをする。他者との対話や交流を後押しし、児童の発想力を伸ばす。ひねり出しの基本的な方法を学び実践するとともに、切る、つなげる、伸ばすなどの工夫や自分の思いを

表現する技能を育て確かな力を身に付ける。

○追究観点③ 深めよう 生き生き授業

『児童の資質・能力を引き出す工夫』

導入では、題材との出会いを演出し、児童の興味関心を高める。自分の思いを見つめる鑑賞活動として、デジタルカメラを通して自分の作品と向き合う活動を取り入れる。また、作品を持ち寄り、作品の楽しさや面白さについて話し合ったり、大型モニターを使って自分の思いを相手に伝えたりする活動を行う。

4 活動過程

- (1) 造形遊び
- (2) 言語活動【国語の学習の時間を活用】



(3) 作品づくり



- (4) 作品の撮影



(5) 鑑賞

【グループ⇒全体発表】

5 まとめ

児童は一人一人が自己を表現したい、自己を知ってほしいという気持ちをもっている。今回の授業では、導入やそれ以前の準備から児童の思いを引き出すこと、児童の思いを把握することを大切にしたい。児童の発想を引き出すためには、丁寧に聞き取ることや、言葉がけの工夫が大切である。また、児童に身に付けたい力を明確にするために、技能面での実態を把握し、それに合った材料選びや授業展開が必要である。これからも児童が自分の思いをのびのびと表現できる授業を行っていき

小図子 勝司 (ふじみ野・駒西小)

6 協議

① 質疑

- ・児童によって粘土の色が違うが、買い足したのか。

→白粘土を買い足した。多めに用意をした。

- ・児童が作品を撮っていたが、カメラは何台用意したのか。

→カメラは1台で回した。撮っている間に作品カードを書く時間にした。

② 付箋を使ってのグループで協議

追究観点③深めよう 生き生き授業～『児童の資質 能力を引き出す工夫』について

○良かった点

- ・ねらいが明確で、そのねらいが一貫してブレなかった。思いが貫かれた素晴らしい授業だった。
- ・事前の造形遊びや、自分のよっしゃ体験を書き、その紙を貯金箱に貯めていくという他教科(国語)との関連性を生かした取り組みによって、方向性がわかりやすく活動がスムーズになったのではないかと。この活動があったからこそ興味関心を持ち、子どもたちのやる気につながった。子どもたちが飛びつく“よっしゃ”という言葉ピックアップして出会わせただもよい。
- ・教師の「作り変えてもいいよ。」という言葉で安心感を与えている。また、教師が全面に出なくても、“捻り出し”という言葉を知り、その方法を友達に教えたり、粘土以外の材料を交換したりするなど、子どもたち同士で交流する姿があった。
- ・鑑賞では、最高の瞬間をカメラを使って自分で撮ることで、作品を見つめ直す時間にもなった。カメラの角度にもこだわり、自分で構図が決められるのがよい。動画も有効。

○課題や改善点

- ・形にならない子の支援(思いはあるが形にならない)をどのようにアプローチしていくか。手足を動かせる人形をグループに置いて触る機会をつくるのもよい。
- ・どのように全員を見取っていくのが難しい。コツコツタイムをつくって、集中して個人で作業をする時間をもつのもよい。
- ・補助材はなくても粘土のみでもよかった。
- ・土台の工夫もできたのではないかと。色紙を敷いたり、角度の自由があったりしてもよい。
- ・鑑賞から発表までの2時間続きは飽きてしまう

心配があるので見せ方の工夫をする。作品を真ん中に集めたり、クイズ方式を取り入れたりする。

7 指導講評

(所沢市立荒幡小学校 校長 鈴木 勢津子)

- ・授業者がしっかりとした視点や考えを持って授業を工夫することはとても大事であるとともに、学級経営につながる。図工の授業を通して学級が変わることもある。今回の授業「よっしゃーねんど」を通して、認め合ったり学び合ったりする児童の姿が見られた。学級の実態に合った授業を考える場合もあれば、授業を通して身に付けてほしいという教師の思いを込めた展開を考える場合もある。
- ・子どもたちにとっての「やったーよっしゃー」の作品ができ、満足感を得られたことが大きい。大会テーマ「つくりだす喜び」に即した授業だった。
- ・他教科(今回は国語)とのタイアップも良かった。制作過程では、国語で行った「やったーよっしゃーちょきんばこ」の掲示を見に行く児童もいた。どんなことがあったのか確認をしていた。この姿は、教師の声かけのヒントや思いを形にする手立てになる。
- ・子どもたちは、形や色でしか表せない力(伝える力)を持っている。図工の学習の前に、国語の学習で言語活動を取り入れ、作品完成後に作品カードを書くことで再び言語活動に戻している。この流れはクリエイティブな部分であり、そのための準備も素晴らしかったため、今回の授業は成功したと言える。
- ・校長先生との身長差にこだわっていたように、子どもたちは集中するとリアルを求める。はじめは、作りやすいものを作っている子も、周りからの情報や刺激によって本当に作りたいものを作るようになる。自己との対話にもなっている。
- ・今回の授業のように、3つの意欲を意識した授業の組み立てを考えてほしい。1つ目は意欲の喚起。2つ目は意欲の持続。3つ目は意欲の強化。
- ・今回の授業も、先生同士の話し合い、学び合いから生まれたものである。そういったプロセスを大事にしながら、対話のできる授業づくりを目指してほしい。

第2分科会	自己との対話
中学校2年生 題材名「未来を描こう！ ～キュビズムに挑戦～」	

1 趣旨の説明

本題材は「未来を描く」ことをテーマに、クレヨンなどの画材で自分の未来について考え、描く授業である。

パブロ・ピカソのキュビズムの表現方法を使い、抽象的な表現で、今の自分や将来の夢、まだ見ぬ未来への不安や葛藤などを表現させたい。また、クレヨンを使う理由として、油絵のような力強い表現を目指したいと考えた。クレヨンでの技法(ぼかす、重ねる、こする、点描、削る)を新たに指導する中で、何気なく使っていたものが魅力的画材へと変身する。

自分を何かに見立てたり、形や色彩を整理、単純化や省略、強調したりしながら創造的な構成を考えさせたい。そして、作品と向き合い、自己の内面、願望、感情、夢を表現することで、未来を切り開いていけるような生徒を育てたい。

2 素材・材料・用具の紹介

- ・厚口上質紙を画用紙として使う。
- ・プロッキーで輪郭を描く。
- ・クレヨン又は、クレパスを使う。
- ・仕上げに木工用ニス塗りを塗り、画面を保護する。

3 活動内容

追究観点 ①受け止めよう子どもの心

制作を進めていく過程で、心の変容を受け止めることを大切にする。

追究観点 ②育てよう確かな力




自分の未来を描くことをテーマに、モチーフから感じ取ったことを、単純化したり強調したりし

て自分の考えを練り上げていく力や、表す形や色彩を整理し、再構築していく中で新たな見方や感じ方を育てる。

追究観点 ③深めよう生き生き授業

2年間でどのような心の変容が形や色彩にあらわれるのかを研究し、より深い学びのある3年生の授業につなげる。

4 活動過程

学習の進め方	留意事項	関	発	創	鑑
志高式 1. 2学期の上級学校訪問や職場体験学習などの自分を見つける活動を基に、自分の夢や将来について考え、志高の言葉にする。志高の言葉を、志高の会で保護者や下級生の前で発表する。					
1時間目 鑑賞 ピカソについて知る。作品を通してピカソの作品に込めた思いを理解し見方感じ方を深める。					
2・3時間目 課題の把握と発想・構想 今の自分を表現できるものや、未来の自分をスケッチし、単純化や省略、強調したりしながら創造的な構成を工夫する。					
4・5・6時間目 制作 構想を基に自分の表現意図に沿った表現方法を工夫させる。1年時までの学習を含め、これまで学習してきた技能等を活用させる。					
7時間目 仕上げ・まとめ 作品に込めた思いや、自分の作品を振り返りまとめる。					

5 まとめ

これからの未来について言葉やスケッチにしていく作業は、心の中の見えない感情を整理することができた。また、夢が具体的なない生徒も抽象画を表現することで取り組みやすい題材となった。

生徒をよく観察した事で、自分なりのものの見方や感じ方を持っている事も実感できた。これからも、生涯豊かに美術と関わっていける生徒の資質能力を引き出していけるような題材を考えたい。

井上 暢之 (大里・深谷中)

6 協議

協議事項として

◇美術を通してどのような力を身に付けさせたいと考えているのか。小学校6年間、中学校3年間の美術の授業を通してその後の人生にどう繋げていきたいか。

→つくりだす喜びを体感させたり、触れさせていきたい。先生のように系統性をもって指導していきたい。

- ・思いやりのある生徒を育てたい。わからないことに触れる受容力を育てたい。
- ・卒業後も美術に関心をもってほしい。作品を通して自分の思い、他者の思いにも気付いてほしい。
- ・ワクワクする気持ちを引き出したい。楽しい気持ちが将来に繋がる。

◇感想

- ・暗い表現はダメと思われがちだが、美術はその暗さがよいとされる。表現することがいかに大事か今回の先生の発表で再確認できた。
- ・「作品は自分自身だ」ということを中学生なら十分に身に付けられる。進路キャリアに繋がる素晴らしい実践である。
- ・鑑賞の授業から表現活動させることは難しいが、キュビズムで表現できることを知った。
- ・小学校では2分の1成人式を行っている学校もあるので、小学校も含め9年間で比較してもよいのではないか。
- ・クレヨンの技法や紙の種類、スクラッチの部分はマスキングしているのか。
→クレヨンは指でぼかしたり、トイレットペーパーでこすったりしている。紙の種類は厚口上質紙。スクラッチの部分はマスキングせず、直接描いている。黒マジックでなぞり、塗り絵のように描いている。

7 指導講評

(熊谷市立玉井小学校 校長 大谷 裕紀)

- ・限られた授業時数の中で先生のように、いかに生徒に寄り添い、支援するか、三年間を見通してやるのが大事である。
- ・追究観点でもあるように、子どもたち自身がどうしたいか、教師は子どもたちにどうなってほしいか。目指す子どもの姿が見えていると安心できる。
- ・「年間指導計画の題材と系統性」を子どもたち一人一人に配布していた。系統性とカリキュラムマネジメントまで網羅している素晴らしい資料である。子どもたちの作品もこのようにまとめられたら自分の歴史になる。
- ・授業の中で「こうやって」「次はこう」「こう塗って」「この色で」という指示をしまいがちである。「子どもの手を借りた教師の作品」づくりになっていないか、子どもの柔軟性を信じ、小中の連携が大切である。
- ・子ども自身が、自分の制作過程を通して変化や変容をいかにしてきたか、学年が上がって系統性から見られる自分の変化や成長をどう捉えているのか、子どもが自分で把握できた。
- ・教師が子どもに問うことで力を引き出せる。
- ・3年間を通して、単に美術を教えるだけではなく、充実した美術の時間であり、人として大きく成長を感じる時間である。
- ・「作品と向き合い、自己の内面、願望、感情、夢を実現することで未来を切り開いていけるような生徒を育てたい」とあるように、先生の子どもたちへの美術の可能性についても思いの詰まった発表だった。

第3分科会	生活との対話
小学校4年生 題材名「6年生を送ろう いつもの場所に特別な思いをのせて」	

1 趣旨の説明

本題材は、行事（6年生を送る会）に絡め、卒業生へ向けて自分たちの思いや卒業というキーワードからイメージしたことを表す学習を目指した。

事前に行った2回の造形遊びの経験を活かして様々な表現方法を選び、空間を彩るオリジナリティのある表現を追求していくことをねらいとしている。行事と絡めることで行う目的意識をはっきりともつことができ、イメージしやすくなる。いつもの生活空間を彩り、身の回りにある素材を加工していくことで、技能面や発想する力が高められ、普段の生活で、共同でつくる喜びや飾り付ける面白さを実感することへつなげていきたい。

2 素材・材料・用具の紹介

材料は、傘のビニール袋、色画用紙、枝、プラスチックカップ、綿、カラーセロファン、ナイロン糸、おはながみ、モール、ボタン、段ボール、ラシャ紙、スズランテープを使用した。用具はグルーガン、接着剤、ガムテープを使用した。主にグルーガンを使用して接着力の強化と硬化時間の短縮を図った。

3 活動内容

（追究観点① 受け止めよう 子どもの心）

行事と絡めることで必然性を持たせ、イメージを広げやすくし、付箋を用いて考えの可視化を図り、意見を共有化しやすくして構想を練る。

（追究観点② 育てよう確かな心）

造形遊びを定期的に組み込むことで、友達と協働的に関わりながら素材の組み合わせ方、加工の仕方を学べるようにする。発想を高め、構成するためのアイデアを深めるために作品の展示例を提

示して、児童がイメージをもちやすくする。

（追究観点③ 深めよう 生き生き授業）

図工の造形遊びを学校行事と絡めることで活動に目的意識をもたせ、3回の活動から素材の生かし方や発想力を高めることで、造形的なものの方方や考え方を十分に深めることができる。

4 活動過程

- ・ 1回目の活動 9月 4時間
- ・ 2回目の活動 12月 6時間
- ・ 3回目の活動 2月 11時間（本時）

①…発想と構想（1）



マインドマップで個人の考えを広げてから、付箋を使ってアイデアを出し合い、グループの用紙へまとめていく。

②…つくる（7）



各グループで材料の加工を行う。考えたアイデアに沿いながらも素材を扱いながら思いついたことを試していく。

③…飾る（2）※仕上げ



足りない部分を補足しながら、作品を体育館へ設置する。

④…鑑賞（1）

5 まとめ

付箋を使用したことで、考えを共有化でき、自信をもって活動に参加する様子が見られた。3回の造形遊び（活動）をすることで、素材の組み合わせ方・使い方の理解が高まり、スムーズに活動に取り組むことができ、発想や技能の高まりも見られた。活動時間は課題であったが、今後も他の何かと連携できる題材を見つけていきたい。

小泉 亘（本庄・本庄西小）

6 協議

- ・今回の活動は、1,2回目は「造形遊び」と考えられるが、3回目は「造形活動」ではないか。
→1, 2回目の授業は文字通り「造形遊び」で、3回目の授業では集大成としての「造形遊び」としてとらえてもらいたい。
- ・「造形遊び」というよりは「アートプロジェクト」に近いのではないか。
→活動自体が少なかったのは「思考」ととらえてよいのだと思う。
- ・素材との出会いをどのように設定したのか。
→身近な素材には何があるのかを投げかけることから始め、「運動会があるので何を使いたいか」としたところ「段ボール」が子どもたちから出され、本校の運動会では赤組と青組に分かれることから赤色と青色は必ず使うという約束ができた。
- ・6年生を送る会に飾ったということだが、6年生はどのようにとらえたのか。
→6年生を送る会終了後「すげえ!」「カッコいい!!」等の感想をもらえた。それ以外は今回聞くことができなかつた事が今後の課題だと思う。
- ・対話を通して活動していくことで、深い学びに結びついていくのではと思う。
- ・「生活」というと行事だけではなく、普段の生活に何らかの形で繋がっていくと良い。
- ・年間で3日間活動できたところや、目的が明確だったところがとても良かった。
- ・素材と場の設定が難しく、工夫が必要だと思う。
- ・グループの出来栄の評価はできるが、個人の学びが不明確になってしまうのではないか。

7 指導講評

(本庄市立北泉小学校 校長 岡村 和美)

- ・子どもの成長は、幼稚園から小・中・高と「感性」という言葉で繋がっているものだと思う。
- ・子どもは本当に図画工作好きが多いので、自己肯定感を実感させる指導を心掛けてもらいたい。
- ・今回の活動では1日目、2日目、3日目と取り組み、子どもの変容が主題になっている。
1日目 どうしたらよいのかわからない子、

立っているだけの子に見えても子どもたちの中では思考の途中なのかもしれない。子どもたちに対しての教師の言語活動が大事で、「上手」「きれい」は禁句にしてほしい。「発想がよいね」「道具の使い方がすごい!」「どうやって工夫したの」「どうしてわかったの」などとし、他の子どもたちにもそのよさを紹介してもらいたい。

2日目 子どもたちの動きに変化が表れて動きがよくなってきた。

3日目 自然と役割分担をして、チームとしてのまとまりができてきたところがよい。

- ・評価は「見ること」が大事。「普段はあんなことを言わないのに今日は言っていたな。」「あんな行動をしていたな。」等VTRに残しておくことも効果的である。
- ・何事も「慣れ」が大事。やらないよりはやった方がよいし、時数がかかると不安になることはわかるが、慣れると効率的に動いたり、発想したりできるようになる。大人よりもずっと子どもの方が素材への対応力が高く、順応力があり、学んでいく力があるものだ。
- ・「形」「色」「イメージ」を色ごとの付箋に分けて記入させたりすると作品の見方も身に付いてくる。
- ・「造形遊び」は協力しないとできないものなので、チーム力が大切になる。図工美術はコミュニケーション能力を高めたり、ネットではできないアナログの体験を通じて様々な対応力が身に付く大切な教科である。一人一人のすごいところを認め合うことが人権教育にも結び付いている。素材は身近でどこにでもあるような物で、お金をかけずに今まで見たこともないような物を作らせてほしい。何もないところから生み出すことや作り出すことはAIにはできない事。「形」「色」「イメージ」を意識した取組をさせてほしい。何をほめられているのかわかることが大切であり、ほめられると生活が豊かになり、生活が豊かになると生きる楽しみが増える。そのための造形活動である。
- ・先生方の発想は無限の可能性を秘めているので、先生方の力で豊かな活動をさせてほしい。

第3分科会	生活との対話
生活を豊かにする実践例 中学校2年生	
題材名「 <i>Fairies of East</i> ～発見！東中の妖精・妖怪～」	

1 趣旨の説明

生徒にとっての生活の中で学校生活に焦点をあてた。「生活を豊かにする」には役に立つものや必要なものをつくりだすことも含まれるが、精神的な豊かさに注目し以下のようにとらえた。

- ・必要以上のもの、必要最低限でないもの。
- ・生活の中で「美」を感じ、語ることができる。
- ・美術の力で生活を豊かにしようとする意欲をもつことができる。

生徒は学校生活をみつめ（＝生活との対話）、その良さや課題を仲間と話し合い（＝人との対話）、その解決や原因の追

及を妖精・妖怪という架空の存在を通してユニークに発想し（＝作品との対話）互いの作品を楽しむことができる。

2 素材・材料・用具の紹介

平面作品：画用紙（八つ切り）描画材料は各自の表現に合わせ判断させる。

立体作品：石粉粘土、芯材各種ヤスリ、表現に合う他の材料も各自の準備を推奨。

3 活動内容

追究観点① 受けとめよう子どもの心

学校生活について、その良さや課題をみつめる。そして、互いにその発見を認め合ったり、深め合うことができる。



『アイツ目薬★』学校祭の妖精目の表面に張りつき、全てのものを楽しく見せてくれる！



『鳳魂』音楽室の妖精演奏者に「魂」を込め、気迫ある演奏をさせる

追究観点② 育てよう確かな力

本題材は「イラストレーション」の課題の一つとして実施した。始めに絵本を鑑賞し、イラストレーションの様々な表現を理解した。そこには“人を思いやる”工夫があふれている。この美術の力は、生活の中で生涯にわたって、味わうことも生かすこともできる。

追究観点③ 深めよう生き生き授業

2年生は元気で勢いがある。持ち前のパワーとユニークな発想をもって、学校生活の向上に向けて生き生きと制作を進めることができる。

4 活動過程

①導入 複数の妖精を紹介し、その役割りとデザインとの関わりを感じとる。西洋の妖精と日本の妖怪や八百万の神の発想を知る。

②宿題 自分にゆかりの深い場所、役割（委員・係等）、学校祭の観点から、妖精や妖怪の存在の可能性を考える。

③発表会 見つけた妖精・妖怪を発表し合い、発見の観点や発想の工夫を学び合う。

④アイデアスケッチ 実在する人や動物の形・動きに縛られず、自由な発想を促す。

⑤ラフスケッチ 役割をイメージした「動き・表情」を加え、デザインの詳細を決定する。

⑥制作 表現方法を平面立体から判断する。次の点については特に工夫を重ねるようにする。

- ・展示する場所を考慮したサイズや色合い・役割や性質を表す動き、表情・衣裳や小物等のデザイン・バリエーション、数の工夫

⑦作品展示 見え方を考え効果的な展示を工夫する。

⑧鑑賞 鑑賞ツアーを企画し、作品の発見を楽しみながら、妖精妖怪の設定と表現の関連を読み取る。



『はしrun!』廊下の妖怪頭を好物に変えて生徒をおびき寄せ廊下を走らす

5 まとめ

美術と生活との関わりを楽しむ姿勢が育まれてきた。今後も生徒が自ら「美術の力で生活を豊かにする」意欲を高め実践できる環境を整えたい。また、主題についての考察を一層深めることができるように、中間発表会や批評会などをより工夫したい。

二木 洋明（東松山・東中）

6 協議

- ・ 自校でゆるキャラを創る授業をやった。人が中に入れる形で考えさせたが、今日の発表を聞いて、妖精・妖怪というアイデアもよいと思った。自分の題材を見直すきっかけになった。
- ・ 「人の形に込めたもの」という題材で学校生活の一場面の人動きを捉え、形をつくらせた。鑑賞の際には、実際につくった人形をその風景の中に置き、様々な角度や距離から写真を撮影させ、その写真を用いて鑑賞会をした。人形がその風景に溶け込み、本当の人間のように見え、鑑賞会では生徒の感想や意見が活発に交わされた。鑑賞や展示の際にCGの活用も効果的だと思った。
- ・ 生活を豊かにする実践について、自分の学校では校内の掲示物が活字ばかりの寂しい掲示物になっているので、児童のつくった掲示物を増やし、もっと学校生活を豊かにしたいと考えている。今回の発表を参考にしたい。

7 指導講評

(川越市立東中学校 校長 田中 晃)

- ・ 自分の学校の生徒の様子や特徴から、どのような生徒に育てたいか、それに必要な力は何かを考えて授業をしている。題材ありきではなく、何を学び、どんな力を育てるのが先にあることが重要である。
- ・ 主体的な学びと表現力を促す手立てとして、テーマの提案から迫り方など、導入を工夫している点がとてもよい。子どもたちがイメージを広げ、想像しやすいように工夫されている。
- ・ 話し合い活動は他者と意見交換をすることにより、自分が感じたことを客観化でき、思考の確認と深まりを促す。さらに、プレゼンテーション能力、表現力にも繋がる。
- ・ 空想上のキャラクターではあるものの、思いやりや学校生活を向上させる豊かさを機能として、生徒が思考し、表現しようとしているところがよい。
- ・ 中学生の作品を見ると実際にあるものをモチーフに絵や立体に表した作品が多いように感じる。発想の段階で具象的な発想から抜け出せず抽象

的な思考が働かない。中学生では抽象的思考を育てていく必要がある。自分が考えたことをもとに新たな形やイメージを創り出す想像力を伸ばせる授業の工夫をお願いしたい。

- ・ この実践では、気付きや発見を元に様々な対話を重ねることで、そこにはないものを生み出す力を育み、美術の見方や考え方をを使って心の豊かさを生み出そうとしている。生活との対話をテーマに、物質的なモノとしての豊かさでなく、他者理解や思いやりといった要素を含めて、美術による心の豊かさが追求されているように感じた。
- ・ 二木先生の数々の実践は、発想や構想を練ることを大切にしながらも、材料の工夫や効果的な加工の仕方、デジタルツールの活用による作品の見せ方等技能を常に意識している。
- ・ 教師がクオリティを上げることで生徒が自分の取組に満足し、新たな自分のよさとして実感することができれば自己有用感を高めることにも繋がる。
- ・ 教師がこのような取組を互いに学び合い、子どもの豊かな感性を磨き、確かな学力を伸ばして欲しい。

第4分科会	作品との対話
小学校 2・3・6年生 題材名「ひみつのたまご」(2年) 「へんてこ山のふしぎなお話」(3年) 「音から広がる世界」(6年)	

1 趣旨の説明

「作品との対話を活性化し、思いをのびのびと表現する児童の育成～発想力を引き出す図画工作科の研究～」をテーマに学校研修に取り組んでいる。目指す児童像は、①思いを表現する楽しさを味わえる児童 ②自己肯定感をもち、自らの創作に自信がもてる児童 ③自分や友人のよさを認め合える児童である。

造形遊びによって、児童が活動を楽しみ、材料や場所、空間からたくさんの発想をしていくことができるようになってきた。絵や立体、工作に表す活動においても『作品との対話』とは、自分の心や頭・材料や場所との「自己内対話」、友人や教師、学習協力者、保護者等との「他者との対話」をも含み、作品は自分自身であると考え、作品との対話を活性化し、思いをのびのびと表現する児童の育成のために手立てを考え、実践してきた。

2 素材・材料・用具の紹介

2年：ひみつのたまごをつくるのに画用紙の大きさを自分で選べるようにした。画材やたまごの割り方などについても自己決定できるようにした。共用の水彩絵の具を用意し、画材を使いながら友人の作品を自然と鑑賞できるような場も工夫した。

3年：金網、歯ブラシ、ストロー、たんぼ等を共用で使えるようにした。

6年：スチレンボード、削る材料で彫る・刷るをたくさん試せるようにした。

3 活動内容

追究観点①受け止めよう 子どもの心

- 友人や教師と対話をすることで発想力を高められるようにする。
- 場の設定を工夫し、活動しながらお互いに鑑賞もし合えるようにする。

○学習の見通しがもてるようにする。

追究観点②育てよう 確かな力

「育てたい資質・能力の構造図」を作成し、学習指導要領を踏まえた指導事項、本題材の指導事項、予想される児童の反応と指導の工夫について明確にした。

追究観点③深めよう 生き生き授業

発想を引き出す導入を工夫し、想像上の非現実的な物など正解や決まりのない自由な発想をしやすい題材を提案した。中・高学年はアイデアスケッチをメモ書きし、想像を膨らませた。また共用の材料を使う場所、制作途中の作品を乾燥させる場所等で自然に鑑賞できるよう工夫した。

4 活動過程



(3年) かきながら鑑賞 (6年) 乾かしながら鑑賞



(2年) たまごの殻を手で破いて表現

5 まとめ

学校研修の取り組みを通して、図工の学習が楽しいと感じる児童の割合が増え、目指す児童像に近づきつつある。一方で、発想力が高まりアイデアは浮かぶものの、自己の「表現力」に納得できない児童に対しどのような手立てをとるか課題である。また、絵画の写実性をよしとする感覚が多く、楽しんで制作しても友人や保護者から認められず自己肯定感を下げてしまうこともある。作品を見る目を育てるとともに、保護者への啓発も今後考えていく必要がある。

松田 英里 (和光・新倉小)

6 協議

- ・6学年の「音から広がる世界」では、5種類の曲を用意して聴かせていたが、どんな曲を選んだのか。
→曲選びは、教師が選ぶことにした。子どもたちが聴いたことのないであろう曲や自然、祭りなどの1つのイメージに偏らない曲を選んだ。
- ・新倉小では、どのような声かけをしているのか。こういうところを気を付けているということがあれば教えてほしい。
→「うまい」「へた」は言わないようにしている。また、「イエス」「ノー」で返ってくる質問はしないようにしている。
- ・「自己との対話」と言ったときにどのような点を見取っていたのか。
→「今、考えているんだろうな」という子には、様子を見守り、子どもの中で「こうしたら、よいのか」、「どうしたらよいのか」と考えていることが自己との対話なのではないか。
- ・四つ切り画用紙をいきなり与えても何を描いたらよいのか分からない子に対してどのような手立てをしているか。
→徐々に手立てを与えてあげることが大切。
3学年の「へんてこやまのふしぎなお話」では、物語性を下がきの段階から与えた。
→画用紙の選定についても、教師が用意したものに描くのではなく、子どもが使いたいものを自分で選ぶことが大切。

7 指導講評

(戸田市立新曾北小学校 校長 山根 淳一)

- ・表現と鑑賞の一体化が実践されていた。どのような資質・能力が身に付いていたのかを表していた。
- ・活動→題材→指導の構造図がある。段々と積み上がり、それが、「ねらい」と「指導に当たって」が明確になっている。
- ・子どもたち同士が交流できる時間の確保ができていた。導入を7分以内でコンパクトにしている。残りの時間を活動時間に当てることができていた。
- ・選択できる工夫があった。自己決定できる学習は、主体的な学びへとつながる。
- ・共用絵の具コーナーを設置すると、自然に友達の絵を鑑賞できる。
- ・教師が表す形を決めすぎること、手順が複雑で一つ一つ説明がないとできない内容を設定することは避ける必要がある。
- ・「声かけ」のポイントについては、“褒めるよりも共感的に”が大切。

第4分科会	作品との対話
中学校2・3年生 題材名「プチ鑑賞クイズ」に挑戦しよう ～短時間の積み重ねによる 鑑賞活動の可能性～	

1 趣旨の説明

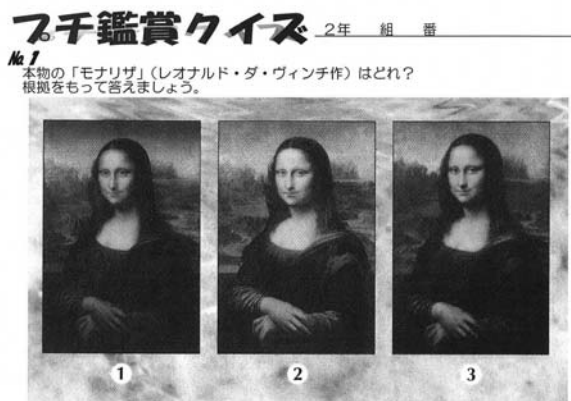
本題材は、2年後期から3年までの1年半継続して行うものであり、授業の最初の5分間で実施するウォーミングアップ的取組である。

鑑賞の様々なポイントを提示しながら、短時間の積み重ねを、と考えたのがこの「プチ鑑賞クイズ」である。

2 素材・材料・用具の紹介

B6判用紙に鑑賞作品とその作品に関するクイズを印刷し一人一枚配布するとともに、大型モニター等に作品を投影する。

終了後、プリントは個人の専用ファイルにとじ込んで美術室で保管している。



3 活動内容

実践は全て5分程度の短時間で行い、必ず時間内で何らかの自分の考えを書くことを約束としている。最初の2分程度は私語厳禁、一人でじっくり考える。その後「意見交流してもいいよ」の合図で周りとの交流。互いに考えを出し合い、答えを導き出そうとする。交流の様子を机間指導し、「これは」と思う意見を毎回発表させている。その際、モニターで大写しにして説明させたり、紹介・共有の場を設けたりしている。最後に問題の答えと

視点、そしてそれぞれの作家や作品についての簡単な紹介をして終了。終了後は通常の授業を行う。

4 活動過程

全25回のうち、これまで行った10回の実践の内容は以下の通りである。

- ①「モナ・リザ」本物はどれ？
- ②「ダビデ像」依頼主の苦情に作者はどうした？
- ③「秋」口の部分は何を使って描いている？
- ④「モナコ・モンテカルロ」何の会社のポスター？
- ⑤「マネとマネ婦人」この絵が持つ逸話とは？
- ⑥「仮面たちの中の自画像」何の場面を描いた？
- ⑦「ビキニの三つのスフィンクス」のダブルイメージとは？
- ⑧「東海道五十三次 戸塚」なぜ描き直した？
- ⑨「黄色い鳥のいる風景」完成後にした加工とは？
- ⑩「ゲルニカ」赤いしずくはどこにあった？

5 まとめ

生徒の様子や感想から、それぞれの感じ方、受け止め方の違いを楽しみ、互いに共感的に認め合うことができていると感じる。また、積極的に意見交換する姿も増えてきており。互いに受け止め合う雰囲気が教室の中にできつつある。作品に興味を持ち、よさや美しさ、おもしろさなどを感じ取ろうとする態度、自分と作品との間に生まれる関係性を構築していく力が、短い鑑賞の活動を楽しむことを積み重ねることで身に付いてきているのではないだろうか。またこの活動によって、その後の作品制作の授業への発想や意欲へとつなげることができたという感想もあり、生き生きと授業に取り組むことへのウォーミングアップ的な部分でも成果はあったと言えるだろう。



さらに充実したものになるよう研鑽を重ねていきたい。
伊藤 順 (久喜・栗橋東中)

6 協議

- ・評価について。感想をたくさん書けば評価が上がるという指導では、鑑賞ではなく関心・意欲・態度の観点ではないか。作品を見てドキドキするような感動を感じるのと、冷静に正しく理解するのではどちらを優先して評価すればよいか。
- ・鑑賞の時間にいろいろな作品を紹介してあげたいが難しい。どのような経緯でこのような実践を始めたのか知りたい。
→できるだけ多くの作品を紹介したいと考えた。また、1年生から授業の最初に短時間で行っていたアイデアトレーニングと替えて、取り入れてみようと考えて実践した。
- ・小学校で友達の作品を鑑賞させているが、小学校でもこのようにいろいろな作品を鑑賞できるようなアイデアはあるか。また、鑑賞カードの活用の仕方を教えてほしい。
- ・全10回取り組みを行ったとあるが、続けて行うのか、できるときに時々行うのか。
→毎時間を基本に行ったが、行事の絡みなどでできないこともあった。
- ・鑑賞の授業は対話型などいろいろやってきたが、継続するのは難しい。今回の発表のように短時間で行ってクイズ形式にするのも面白いと思った。
- ・準備が大変そうだが素晴らしい取り組みだと思った。生徒たちに知識や興味が身に付いて授業以外の場面にも生かされているのか。
→最初は鑑賞に興味なかった生徒が、「楽しい」「難しいことはわからなくてもいいのだな」という考えを持てるようになってきた。
- ・生徒の書いた感想を見ると、関心を持って取り組んでいるのが分かる。鑑賞が深まっていることも感じる。対話が入り入れられている効果が出ている。繰り返し行っているうちに生徒が変容している姿を見られたか。また、3年間を見通して深い学びに導くにはどうしたらよいか。
→ほとんどの生徒は感想をよく書いている。鑑賞クイズのモニターを見たくて美術室に早く

来る生徒が増えてくるなど、表現は苦手でも鑑賞は好きという生徒が出てきた。

7 指導講評

(久喜市立久喜東中学校 校長 寺井 進一郎)

- ・表現と鑑賞は相まって学習が進行している。今回の取組では日常的に鑑賞活動が行われるよう、授業ルーティンを確立していた。
- ・鑑賞を肯定的に受け止める生徒の育成を図っている。
- ・クイズ形式にすることで取りかかりやすい印象を持たせている。
- ・一般常識として与えたいものを知識とし、理解を進めている。(教科書が基本・標準)
- ・発表による言語活動が思考・判断・表現を意識し、主体的・対話的で深い学びへ誘導している。
- ・5分間で個人観賞→複数鑑賞(意見交流)→集団鑑賞(全体交流)を行っている。個と集団での学習により、自己理解、他者理解、相互理解、価値理解が進む。
- ・作品の鑑賞を通じて積極的に他の教科との関連付けを(相互の関連・往復関係)図るとよい。
- ・美術科で鑑賞を行うことで、文化芸術への畏怖、主体性、語彙能力、他者理解など、多様な効果が期待できる。
- ・美術室には様々な掲示物がある。それらを効果的に活用するとよい。

創造体験研修会 A コース	
「造形遊び」 身近なものの価値再発見	
スタッフ (指導者)	飛知和朋子 (さいたま・大宮西小) 鈴木 利江 (さいたま・岸町小) 高橋 太朗 (さいたま・高砂小) 曾根田 瞳 (さいたま・木崎小) 藤田多恵子 (さいたま・北浦和小) 皆川 純子 (さいたま・本太小) 小山 清香 (さいたま・上木崎小) 藤井 晴菜 (さいたま・仲町小) 野澤 朋子 (さいたま・針ヶ谷小) 星野多賀子 (さいたま・大東小) 坂口 遙子 (さいたま・常盤北小) 成田 佳織 (さいたま・仲本小) 尾竹 朝子 (さいたま・本太中) 井藤 楓 (さいたま・大原中) 遠山 聡子 (さいたま・大原中) 佐野絵梨夏 (さいたま・常盤中) 郡司 藍子 (さいたま・木崎中) 齋藤 真希 (さいたま・木崎中) 才津 純子 (さいたま・常盤小)

1 趣旨の説明

昨年度さいたま市桜区が担当した「さわってためて見つけよう！」を受けて、さいたま市で担当する2年目の造形遊び研修である。今年度も「夢中になって活動できる時間」を目指す一方で、「児童の発想を大切にしたい声かけとは？」「造形遊びのねらいや児童の引き出した力とは？」という課題に向かって、児童の姿を思い浮かべながら、研修に取り組んできた。そして自分の言葉でまとめることで可視化し、学びの足跡を残す時間にしたと考えた。

私達は、毎日何かしら誰かしらに出会っている。当たり前に見えることの中にも、見過ごされている価値が隠されているかもしれない。初めて出会う参加者同士が仲間になり、造形遊びを通して、普段は忙しくて見つけられなかった価値を発見し、刻々と変化する表現をカメラで写し、プリントしスケッチブックにその足跡を残していく。

2 素材・材料・用具・場の工夫・グルーピング

(1) 低学年を想定して

- ・透明空き容器
(ペットボトルなどスタッフで集める)
- ・小分けクリームケース
- ・壁装飾ミラーシート
- ・金魚すくい用等大小ビニル袋
- ・目盛り付ピペット ・透明ホース



○工作机にプラスチック製段ボールを敷く。

(2) 中学年を想定して

- ・段ボール (ドラッグストア、役所、スーパーなどでスタッフが集める)
- ・段ボールカッター
- ・軍手 (利き手ではない方にはめる)

○工作机を壁際に寄せて、床も広く使う。

(3) 高学年を想定して

- ・光源 (懐中電灯、LED ライト、OHP など)
- ・白い布 (半透過、反射素材など大きめ)
- ・透明空き容器
- ・透明空き容器に入った色水*(1)活動時のもの
- ・段ボールの製作物*(2)活動時のもの

○プラスチック製段ボールを敷いたり、スクリーンとして立てたりして活動の変化に応じて使う。

(4) 学びを可視化するために

- ・デジタルカメラ 5台
(各グループ1台)
- ・SD カード 3 活動 × 5 グループ
- ・プリンター2台 (スタッフ私物)
- ・プリンター用 詰替インク (シアン・イエロー・マゼンタ)
- ・スティックのり、色鉛筆、マーカーなど



3 活動内容

○自己紹介タイム スケッチブック1ページ目に「私の好きな○○」をテーマに自由に描き、それをもとに自分のことを話す。

○「カラフル色水ワールド」

- ・ペットボトルに水を入れ、インクを数滴混ぜ、色水づくりをする。
- ・色水を思い思いの空き容器に入れてすてきなものを生み出し、並べたり、積んだり、組み合わせたりして楽しむ。
- ・「すてき!」「キレイ!」「発見!」の瞬間をデジタルカメラで交代に撮影する。

○「すごいで へんしん だんぼ〜る」

- ・段ボールでどんなことをしてみたいか話し合う。
- ・手ざわりを楽しみながら、丸めたり、切ったり、重ねたり、組み合わせたりして思いのままに変化させていく。
- ・段ボールカッターの安全な扱いに慣れる。



○「ライトマジック」

- ・光源のもつま面白さ、天井や壁などに光と影の映る環境について触れる。
- ・「カラフル色水ワールド」と「すごいでへんしんだんぼ〜る」の活動で生まれたものを使い、図工室をよりすてきな場所に変身させていく。
- ・光源を人に向けたり、水が掛からないようにするなど安全な扱いに慣れる。

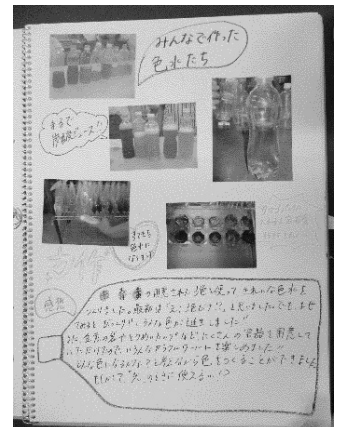


4 活動過程の参加者の様子

自己紹介タイムでは、初対面の参加者同士が「好きなこと、色」などを伝え合うことで自然に空気

が和んでいた。

「カラフル色水ワールド」では、一人一人「いいな!」と感じた色を様々な空き容器に入れたり並べたりするなど、とぎれることなく活動が続いた。多様な材料を用意したことで、つるしたり、2重に入れたり、組み合わせることで楽しみが広がった。変化していく瞬間を思い思いのやり方でスケッチブックに工夫して残し、授業に生かされると高評価だった。



「すごいでへんしんだんぼ〜る」では、暑期中、段ボールを夢中で変化させていく姿が印象的だった。広い床でお互いの活動に刺激を受けながら体全体で楽しんだ。

「ライトマジック」では、2つの活動を受け、場が次々に変化しあちこちで歓声が上がった。

5 まとめ

造形遊びでは、ふんだんに材料があることで子どもの意欲がかき立てられたり、活動を保証することができることで再認識できた。それぞれの材料のよさや弱点、環境問題との関連も含めて教材研究を続け、選びたい。子どもが「つくり、つくりかえ、つくる」価値を支える子どもに寄りそう声かけを続けたい。



才津 純子 (さいたま・常盤小)

創造体験研修会 B コース

「絵に表す」

見て、感じて、表す

～○○を見て、感じて描く～

スタッフ
(指導者)

田島 歩 (川口・戸塚南小)
加藤美由紀 (川口・仲町小)
植村江身子 (川口・芝樋ノ爪小)
宮本 優子 (川口・柳崎小)
吉田 賢宏 (川口・戸塚小)
黒田 智子 (川口・舟戸小)
元田 博文 (川口・根岸小)
金山 智子 (川口・東本郷小)
久田 恵理 (川口・芝小)
佐藤 哲也 (川口・芝南小)
長澤 茜 (川口・舟戸小)
一條 昭代 (川口・原町小)
田中 秀樹 (川口・岸川中)
佐藤 園絵 (川口・芝中)
石井 葉子 (川口・安行中)
鈴木久美子 (川口・芝西中)
佐藤 順子 (川口・北中)
飯田 淳乃 (川口・上青木中)
笠原たまき (川口・安行東中)
阿部 未希 (川口・仲町中)
羽鳥 弘次 (川口・十二月田中)
梅津 一義 (川口・飯塚小)

1 趣旨の説明

「絵に表す」コースの題材設定の視点として「明日から使える技法の獲得」や「イメージがふくらむ声かけのしかた」を考えた。図工・美術では、技法を学ぶ場面・イメージをふくらませる場面・描くものを決める場面と授業の中には様々な場面が設定されているが、それらがうまく連携できているだろうか。技法を学ばせる際に知識を伝達するだけになったり、造形遊びが学びとしてのねらいに迫れず、ただ「楽しかった」でおしまいになってしまったりするケースもあるのではないだろうか。

本コースではそんな先生方の悩みにこたえるべく、技法とそこからイメージできる作品づくりを体験し、互いの作品を鑑賞しあうことでまた新し

い技法やイメージのふくらみが実感できるように企画した。

2 素材・材料・用具の紹介

○素材

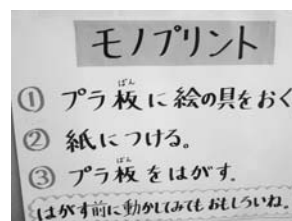
画用紙・和紙・ケント紙・色画用紙

○材料 (画材)

クレヨン・オイルパステル・パステル・色鉛筆・チョーク・水彩絵の具・アクリルガッシュ・版画用インク・マーブリングインク・塩・水

○用具

水彩筆・ローラー・刷毛・スポンジ・割りばし・フォーク・串・歯ブラシ・金網・バット・ペットボトルキャップ・クッキングラップ・紙レース・プラ板・段ボール・梱包材



3 活動内容

○造形的感覚を磨く

絵や写真を見て、連想される形容詞やオノマトペをイメージとして言葉で書き込んでいく。また、ある言葉から連想される形や色を簡単に描く。この活動は形や色からイメージ・アイデアを広げる活動で、作品をつくるときのヒントになる。

○技法体験

児童に体験させたい技法を発達の段階に応じて系統的にまとめ、さまざまな技法が体験できるブースを設けた。各ブースには担当スタッフがつき、ポイントを解説した。

〔技法ブース〕クレヨン・オイルパステルによるぼかし・ローラーテクニック・スパッタリング・水彩のにじみ・パチック・マーブリング・スクラッチ・モノプリント・塩まき絵

○作品の構想づくり

技法・イメージ・描くものの3点にポイントを当て、どれかが決まっていない場合の声かけを工

夫するよう、ロールプレイング方式で解説した。

○作品づくり

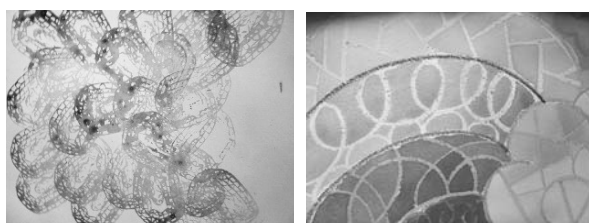
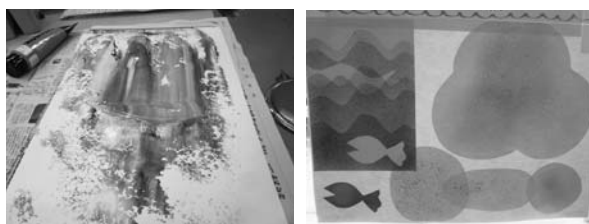
技法体験・構想づくりを基に作品を制作した。

○鑑賞活動 THE 画商

参加者が画商を演じ、気に入った絵を売り込むためのアピールをする、という形で鑑賞活動をした。

4 活動過程

技法体験では、はじめは単発的にさまざまな技法にチャレンジしていた参加者が「これとこれを組み合わせると面白そうだ」「あの人がやっているアレを自分もやりたい」と、技法の模倣や組み合わせをするように発展した。また「こういうイメージにしたい」とイメージから形や色をつくる方がいれば、逆に形や色からイメージを発想し「偶然できたこの色と形が○○に見える」という方もいた。



構想づくりの場面では子どもの立場になり「この技法を使いたいけど何を描けばいいかわからない」や「こんなイメージの作品をつくりたいけど、どんな技法を使えばいいのかわからない」といった悩みを話し合い、活動や技法の試しなどで解決に向ける工夫を学んだ。

作品づくりでは先生同士の会話も弾み、楽しく活動に取り組む様子が見られた。図工・美術の授業において「楽しい」という状況はとても大切な要素で、のびのびと活動することで新たな発想が生まれたり個性が発揮されたりする。鑑賞活動においても同様で、お手本どおりにできた技法をほ

めることも大切だが「自分はこの作品のこういうところが好き！」という感動を伝えあうことが「楽しさ」につながるのだと思う。



5 まとめ

今回の研修は「イメージをもつことが難しい」「イメージを形や色で表すことができない」という悩みから始まっている。技法を学び、伝えることはできても、それを作品に活かすことは難しく、何より子どもに「この感動を絵に表したい！」と思ってもらうことが最大の課題であると考えている。先にも述べたが、図工・美術における「楽しい」はとても重要で、楽しいからこそ子どもは表現したがるし、他者のよいところを認め合うことができる。今回の研修に参加された先生方には技法を学ぶことの楽しさだけでなく、仲間と会話しながらイメージをふくらませる楽しさも体験していただいた。ぜひともこの楽しさを、各学校で子どもたちに伝えて欲しい。

羽鳥 弘次 (川口・十二月田中)

創造体験研修会Cコース

立体に表す ～つくってクレイ～

スタッフ
(指導者)

清水 裕子 (深谷・明戸中)
 根岸 由紀 (深谷・岡部中)
 斉藤 優美 (深谷・桜ヶ丘小)
 榎本 浩子 (深谷・明戸小)
 矢板橋克基 (深谷・幡羅小)
 宮下菜々実 (深谷・深谷小)
 栗原 慶多 (深谷・大寄小)
 杉田 梓 (深谷・藤沢小)
 宮田奈都子 (深谷・深谷西小)
 小暮 明彦 (深谷・常盤小)
 峯岸 潤子 (深谷・八基小)
 赤石 香子 (深谷・上柴西小)
 横塚久美子 (深谷・上柴東小)
 濱名智恵子 (深谷・豊里小)
 安田 基 (深谷・岡部小)
 武藤 和美 (深谷・榛沢小)
 谷脇由利奈 (深谷・本郷小)
 小丸 文香 (深谷・岡部西小)
 古屋美恵子 (深谷・花園小)
 中村 朋美 (深谷・川本北小)
 萩原 京子 (深谷・川本南小)
 田島美知子 (深谷・幡羅中)
 井上 暢之 (深谷・深谷中)
 大竹 清乃 (深谷・藤沢中)
 田島かおり (深谷・南中)
 小林志津香 (深谷・上柴中)
 篠崎 治美 (深谷・川本中)
 中澤 信宏 (深谷・花園中)
 和田 志織 (寄居・男衾小)
 井出はる枝 (寄居・男衾中)
 田島 浩子 (寄居・寄居小)
 井上 結菜 (寄居・鉢形小)
 村田 瑛音 (寄居・折原小)
 吉田 正 (寄居・桜沢小)
 田中 久士 (寄居・用土小)

思い通りの表現がしやすく、達成感や満足感を味わえるという仮説から多種類の加工粘土の性質の違いを体験し、授業作りのヒントを生み出す提案を行った。

2 素材・材料・用具の紹介

(1) 紙粘土づくり材料・道具

- ・ミキサー・新聞紙・牛乳パック
- ・でんぷんのり

(2) 加工粘土の種類

- ・ファンシークレイ・ATねんど
- ・黒ねんど ・Woody ・フォスター
- ・ハードクレイ (グレー) ・素焼き調ねんど
- ・AT粘土テラコッタ・スーパーライト
- ・まいるどスーパーライト
- ・AT粘土ブロンズ (以上アーティックより)
- ・100円ショップ粘土多数

(3) 芯材・装飾材料

- ・麻ひも・たこ糸・モール・竹ひご・紙皿
- ・ストロー・紙ボール・割り箸・楊枝
- ・ピック・ビーズ・リボン・空き缶・針金
- ・ペットボトル・段ボール箱・新聞紙
- ・エアークャップ・松ぼっくり・牛乳パック

(4) 用具

- ・彫塑へら・切り針金・粘土のべ棒・ペンチ
- ・はさみ・ペットボトルはさみ・かきべら
- ・ステンレスボール・水彩絵の具・粘土板
- ・ポスターカラー・アクリル絵の具



1 趣旨説明

前年度の申し送りを受け、「参加すると授業が楽しくなる。」という提案になるように、今年度は実際に授業の中で扱うことの多い身近な加工粘土の素材の違いに注目した。

加工粘土の種類も多様化し、題材にあわせて使い分けることができると、児童生徒の造形活動も

3 活動内容

●研修1 粘土について

①手づくり・粘土づくり

新聞紙を使った紙粘土づくりを実演し、ミキサーで攪拌するところから練り上げまで行った。

②性質の違う粘土



基本的な粘土制作のポイントを説明した。今回準備した粘土の参考作品を提示し、それぞれの特徴も説明した。

③体験しよう



参加者に11種類の粘土を小分けにして配布し、それぞれの粘土の特徴を実際に制作しながら感じ取ってもらった。

●研修2 題材を設定して制作しよう



小グループを作り、短時間設定の題材研究と指導案を考えた。低学年と中学年、中学校がそれぞれ1グループと高学年が2グループに分かれて、題材にあった粘土を選んだり、粘土から題材を考えたりしながら、教材研究を進めた。

●研修3 グループの研修の成果を発表しよう



各グループ10分から15分で指導案をもとに授業の流れ、考えられる生徒の様子、使用した粘土について発表した。学年によって粘土に求める特徴が違うので、異なる粘土の種類を比較することができた。

4 活動過程

○1班 小学校1年生

題材名「でこぼこはっけん」

感触・色の違う粘土を使い、教室内外のでこぼこを写し取りながら扱いやすい粘土を探していた。着色まで考えると白くて固めの粘土が扱いやすいことがわかった。



○2班 4年生 題材名「立ち上がれ！ねん土」

共同制作を通して対話が生まれたり、新しい発想が生まれたり、新しい形を生み出すことが苦手な児童も楽しく参加できる題材になった。「ハードクレイ」を使うことで、磨いた感じの色の美しさも体感できた。



○3. 4班 6年生 題材名「光ってクレイ！」

「ファンシークレイ」の薄く伸ばすと透過する性質を生かして芯材を工夫しながら自分だけのランプシェードを作る授業を考えた。粘土に色を混ぜて出せる視覚の効果や、触り心地のよさなどさまざまな感覚を生かして制作していた。



○5班 中学1年生 題材名「ちいさな私の分身」

細かい描写をするために、樹脂粘土と伸びのよいAT粘土を併用し分身となる形の制作を行った。AT粘土は絵の具を混ぜやすく、扱いやすかった。樹脂粘土は硬化すると透過性や光沢が見られ、よりリアルさを追求していた。



5 まとめ

普段、粘土を選ぶとき、使ったことのある粘土をカタログから選んだり、申し送りで同じものを使用したりと、実際に教師が様々な粘土に触れて児童生徒の活動を想像して選ぶことは難しいものである。しかし、今回の提案を通して、発達段階や目的、粘土の性質によって教師が「素材を選ぶ目」をもつことの大切さを確認できた。

また、グループ活動を行い授業の展開を考えたことでお互いに感じていた疑問を解決し、より具体的な指導案の作成ができた。

今回扱えなかった粘土や素材はまだたくさんある。今後も教える側が「楽しい」と思えるような素材に積極的に向き合い、児童生徒につくり出す喜びを味わわせる研修をしていきたい。

清水 裕子（深谷・明戸中）

創造体験研修会Dコース

生活に生かす

『Enjoy!』

～美術の力で生活を豊かに楽しく～

スタッフ
(指導者)

鈴木 彩子 (坂戸・桜中)
及川美沙子 (入間・東金子小)
児島 綾子 (狭山・新狭山小)
佐野 仁 (入間・東金子中)
高野 敏 (所沢・椿峰小)
戸口 道代 (入間・藤沢北小)
和田 華子 (所沢・椿峰小)
二木 洋明 (東松山・東中)
阿形 寿和 (東松山・野本小)
池田恵理子 (吉見・東第一小)
川崎 真美 (東松山・松山中)
古橋 咲絵 (川島・井草小)
塩原 京子 (吉見・北小)
中村 愛 (滑川・滑川中)
贄田 朱梨 (東松山・唐子小)
西川 洋充 (東松山・高坂小)
脇谷 和夫 (吉見・西小)
三戸 知子 (鳩山・亀井小)
柳澤 京子 (川島・井草小)
和気智恵美 (吉見・南小)

1 趣旨の説明

本コースでは、「生活に生かす」『Enjoy!～美術の力で生活を豊かに楽しく～』をテーマに、「子どもたちの生活」が「美術の力で豊かに楽しく」なるようにと考えた。昨年度の“Change!”に続き、今年度はキーワードを“Enjoy!”とし、「つくって遊べる (遊び倒せる)」ものを提案した。

2 素材・材料・用具の紹介

描画材各種、接着剤・のり・テープ類・グルーガン・和紙・色画用紙・トレーシングペーパー・紙皿・紙コップ・ダンボール・紙ひも・紙粘土・ラミネートフィルム・ペットボトル・毛糸・針金・ビー玉・磁石・輪ゴム・ストロー・風船・タコ糸・ハトメ・缶・カゴ・装饰材料各種 他。

発想を広げ、思いを形にしやすいようにとたくさん材料や用具を用意した。「たくさんあってワクワクする!」「でもこんなにあると迷うな…」との声。子どもたちの気持ちになって、素材に向き合うことができた。

3 活動内容と活動過程

(1) 考える

はじめに、活動の目的を共有するために、コー

スのテーマである「生活に生かす」について参加者全員で考えた。「美術を生活に生かすってどんなことでしょう。」「子どもたちは美術で学んだことをどのように生活に生かしているのでしょうか。または、どのように生かしてほしいと考えますか。」等、いくつかの問い対してグループで意見交換をしてもらった。活発に意見交換をし、「生活に生かす」をどうとらえるか、みんなで確認することができた。

(2) 試す

- 「ビー玉ころころ」
- 「ぴよんぴよんジャンプ」
- 「パンパンつなわたり」



発想を助ける3つの「仕組み」を提案した。どれも、教科書に載っているものや、子どもの頃に遊んだことがあるようなシンプルな「仕組み」である。また、身近な材料を使って簡単につくることができる。決して目新しい提案ではなかったが、参加者は、目をキラキラさせ、「ワー!」「すごい!」と声をあげていた。自分の手で作り、遊んでみることで、感動や発見があったようだ。

(3) つくる

“めざせ! ZUKOlympic!!”

より高く! より速く! より美しく!

試した3つの仕組みに加え、教科書題材やスタッフが作った参考作品などからも発想を広げ、遊べる作品をつくろうと提案した。また、活動の最後には、ZUKOlympicを開催し、競って遊ぶことも伝えた。

ZUKOlympicというキャッチーな場の設定により、すぐに参加の先生方が制作に取り掛かると予想していたが、提案からしばらくは、制作をせず、材料を探したり、新たな「仕組み」を探そうと教科書を見たり、スタッフや参加者と話をしたり、情報収集をしている参加者が多くみられた。まずはひと通りの情報を確認してから、「こんなのつくってみたい!」「いいこと考えたぞ!」と作戦を立てているようだった。

それぞれの作戦が決まると、集中して制作していた。同じ「仕組み」で、いくつものパターンを試す人、様々な「仕組み」にチャレンジする人、装飾にこだわる人、どうしたら美しく跳ぶかをひたすら研究する人…など、より高く! より速く!

より美しく！を合言葉に ZUKOlympic を目指して、試行錯誤を繰り返していた。身近な材料で、容易につくれる「仕組み」であるからこそ、失敗を恐れず様々な発想が生まれていた。



(4) 試すー2

○「プルプルちゃん」

○「中間競技（協議）会」

午後の活動は、初めにスタッフからもう1つおもしろい動きをする造形を提案した。そして、「中間競技（協議）会」として午前につくったもので遊んでみようと言った。実際に遊んでみることで気付くことや席を立てて他の参加者と対話することで気付くこと、様々な材料に触れて気付くこと、スタッフの声がけから気付くこと…など、新たな気付きがあり、さらに発想を広げたり、深めたりして午後の時間も充実した活動となった。加えて、「教材化するなら…」 「学校で活用するなら…」といった視点で、“明日の授業”を構想しながら制作することも提案した。夢中で作りながらも、子どもたちのことを思い浮かべ、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」そして、その学習を通して「何ができるようになるか」等、スタッフや他の参加者と意見の交換をする姿も見られた。

(5) 遊ぶ！遊び倒す！

最後は、試行錯誤を重ね、つくった作品で遊ぶ、ZUKOlympicである。スタッフがつくったオリンピックスタジアムに移動し、「とぶ、すすむ・はしる、ころがる・まわる、のぼる・おりる、フリースタイル」などの競技で競い合いました。より高く、より速くはもちろんのこと、動きのおもしろさや美しさ、そこに込められたストーリーなど、どの作品も本当に魅力的であった。また、大勢の人が見守り、大歓声の中で、競技をする姿は、本家オリンピックにも引けを取らない感動的なものとなった。練習ではうまくいったのに、いざ競技では、思うようにいかなかったり、研究の成果を発揮して最高のジャンプを見せたり、一瞬の動きをとらえようとカメラを構えて見守ったり、大声をあげて喜んだり、笑ったり…。たくさん

ドラマがあった。気付けば、どこから集まってきたのか、大勢のギャラリーに囲まれ、大盛況のZUKOlympicとなった。つくった作品で“遊び倒す”ほどの十分な時間は取れなかったが、本当に楽しい時間であった。



4 まとめ

「生活に生かす」コースの2年目。昨年の提案を終え、「生活に生かす」をどうとらえるべきだったのだろうかとずっと問い続ける1年間であった。また悩める夏がやってきた…と、スタッフみんな今年もとにかく悩んだ。何度も根本を問い直す話し合いをした。そして、たどり着いたのは、“子どもたちの生活”という視点だ。昨年度の提案で抜け落ちていた視点でもあり、リベンジの意味も込めて、“子どもたちの生活を美術の力で豊かに楽しく”にフォーカスした。結果、提案は小学校の教科書題材をもとにした内容となった。中学校の先生方には、不評なのではとの意見もあったが、活動を通して「何を学ぶか」「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」を考えれば、決して小学校向きと否定される内容ではないはずと考えた。

実際に活動してみると、小中の差どころか、大人が夢中になって本気で取り組み、全力で遊んでいた。「主体的・対話的で深い学び」も実現できたように思う。

3年目となる来年度は、“Gift”と題し、“生活に生かす”のテーマをさらに深めたいと考えている。子どもたちの豊かな学びのために、私たちも学び続けたいと思う。

鈴木 彩子（坂戸・桜中）

創造体験研修会Eコース

「鑑賞活動」 鑑賞の引き出し ～誰にでもできる鑑賞授業入門～

スタッフ
(指導者)

中島 高広 (加須・大越小)
松田 洋子 (加須・三俣小)
佐怒賀筑美 (加須・礼羽小)
飯田由梨乃 (加須・大桑小)
武正美智子 (加須・花崎北小)
五十嵐友子 (加須・騎西小)
田村 幸子 (加須・鴻荃小)
村山 佳子 (加須・北川辺西小)
中村 優花 (加須・大利根東小)
高橋有美子 (加須・原道小)
吉澤 友希 (加須・加須南小)
植田 晴香 (行田・北小)
吉田 夏絵 (行田・荒木小)
荻野 啓子 (羽生・岩瀬小)
田高 一洋 (羽生・川俣小)
牛久 智美 (加須・大利根中)
小島 容子 (加須・昭和中)
岩淵 優子 (加須・騎西中)
鈴木 聖乃 (加須・加須西中)
五味 愛子 (加須・加須東中)
川久保秀美 (羽生・南中)
稲垣 直人 (羽生・東中)
瀬田真希穂 (羽生・西中)
福知 秀幸 (羽生・南中)
井手 健仁 (行田・埼玉中)
甘棠 紘子 (行田・長野中)

1 趣旨の説明

鑑賞というと「学習の進め方がワンパターンになってしまう」「芸術作品へのアプローチ法や鑑賞活動での視点の与え方が分からない」など、つい敬遠しがちである。しかし、子どもたちは鑑賞の活動を通して作品から感じ取ったことをもとに考えたり、友達と意見を共有したりすることで新しい発見があり、さらに考えを深めることができる。

そこで、実際に実践された鑑賞活動を体験し、子どもたちの目線で楽しんでもらい鑑賞の授業に

対するハードルを下げることを目的とした。さらに、実際の子どもの反応や鑑賞活動に必要な視点の与え方なども紹介し、実践しやすいよう工夫した。

2 素材・材料・用具の説明

○用具

- ・鑑賞ワークシート
- ・アートカード (サトエ記念21世紀美術館所蔵作品をカードにしたものを許可をもらい複製した)



3 活動内容・活動過程

① アートカードを取り入れた授業

作品をよく見る、考えを深める、お互いの意見を共有することをねらいとして、ゲームのように楽しみながらできる活動を行った。

マッチングゲーム

2枚のカードの共通点を見つける。

自己紹介しながら、形・色・その絵から受けるイメージを考えて共通点を探した。

いっせいのっせ!

言葉や質問のイメージに合う「絵」を直感的に探す。

「自分の部屋に置きたい絵は?」「冷たい」(または「あたたかい、ほのぼの」等)でイメージする絵は?」なぜその絵を選んだのか伝え合う。



選ぶ絵が同じであったり、全く違う絵を選んでいたりと、同じ絵を選んでもその人の感じ方が違うことが分かる。

プレゼントフォーユー!

贈り物をする相手の性格や好みに合った絵を選び、その理由を伝え合う。「大切な友達へ」「校長先生へ」など。プレゼントする人をイメージし、なぜその絵を選んだのか聞き、共感できる。

名探偵ゲーム

カードを選んだ理由と、描かれている内容についてグループで発表し、その中から話し合って絵

を選ぶ。(選んだ作品についてグループごとに形・色・作品の様子についてヒントを出す。)

問題を重ねるごとにグループで選ばれる絵が一致してきた。

② アートかるた

授業案をもとに、模擬授業のような形でアートカードを使ったかるた遊びの実践紹介をした。



ねらいは「美術作品をよく見て、見つけたり感じたりしたことを話し合う中で、友達との見方や感じ方の違いに気付き、自分なりの作品の見方や感じ方を深めることができる」である。

今回は①の取組と同じく、サトエ美術館のアートカードを使って行った。流れは、アートカードの中から気に入った作品を1枚選び、その作品を絵札に見立て五七五の読み札を作る。読み札を考えるときに、作品から感じた形・色・イメージからさらに自分なりの想像を広げ作品を味わった。児童が考えた読み札を紹介すると、大人顔負けの豊かな発想に参加者は驚いていた。

③ 鑑賞『近所に新しく来た子どもたち』

日本文教出版1年の教科書に載っているノーマン・ロックウェル『近所に新しく来た子どもたち』を取り上げ、鑑賞の授業を体験した。

ねらいは、「友達の見方から自分の見方、考えを広めよう」「鑑賞する楽しさを味わおう」で、中学校1年生で初めての鑑賞を想定した。



流れは、個人での鑑賞の後にグループで感じたことを意見交換し、共有する。その後の鑑賞(話し合い活動)のテーマとして、「この子どもたちはこの後どうなるか」を投げかけ、グループで鑑賞を深め発表した。鑑賞の際は、色・形(構図や人物の動きなども)から、想像を広げ作者が作品に込めたメッセージや描かれた子どもたちのその後だけでなくこの場面に至った経緯など幅広い意見

を全体で共有した。

④ 語彙カードを活用した鑑賞活動

ねらいを「語彙カードを活用し、自分が感じ取ったものを相手に伝える力を育成する。」として実践を行い、その取組の様子を発表した。

鑑賞活動では、自分が感じたことを言葉によって対話したり書いたりする場面が多い。そこで、言葉にするのが難しい子どもへどのような支援ができるかという視点から語彙カードの取組を行った。

語彙カードとは、「楽しい」「ぴかぴか」「静かな」「ぞわぞわ」などの言葉が書いてあるカードのことで、そこから感じたことに近い言葉を探す。そしてなぜそう感じたかの理由などを引き出すことで、やりとりを深めることができる。

語彙カードは言葉を工夫することで小学校低学年の授業に用いたり、制作において構想を深めるための思考ツールとしても活用したりできる。

中学校で語彙カードを使った取組を行った成果として、意欲的に授業に参加できる生徒が増えた点と、文章表記が苦手な生徒も鑑賞文を書くことができた点が挙げられた。



4 まとめ

様々な鑑賞の題材を授業形式で実際に体験してもらい、グループでの活動の時間を多くとることで活発な意見交換ができた。参加者の先生方も積極的に参加してくれたことで、より楽しく充実した活動ができた。

形・色・イメージなどの鑑賞の視点を明確にしていくことで、「鑑賞＝難しい」という印象も変えられたようだった。

甘楽 紘子(行田・長野中)

令和元年度 埼玉県美術教育連盟役員

- 顧問 山屋 敬典 五井 修 馬場 恒安 三澤 文人 松本 晃 野澤 優 茅野 憲一
 石田 拓喜 笠原 秀夫 村上 博俊 矢嶋 廣明 関根 隆之 加藤 修
- 連盟長 中川 昇次 さいたま市・片柳中
 副連盟長 丹後 雅博 さいたま市・大宮西小 森田 直樹 上尾市・東中
 武藤 篤美 坂戸市・大家小 濱名 博昭 本庄市・本庄東小 中島 高広 加須市・大越小
- 監事 伊藤 貴重 越谷市・大沢北小 伊藤 政久 川口市・安行東小
- 研究部長 山田 一文 戸田市・美笹中
 編集部長 板橋 利行 川口市・前川東小
 事業部長 久松 丈記 さいたま市・大宮北小
 事務局長 廣田 和人 埼大附属小
- 幹事〔本部役員事務局〕
 坂井 貴文 埼大附属小 安藤 健太 埼大附属小 小西 悟士 埼大附属中
 吉田 真梨 埼大附属中
- 〔本部役員事務局会計〕
 日高 大介 さいたま市・上落合小
- 常任理事・理事 (◎：ブロック長 ○：地区代表 ◇：地区事務局長)

地区	常任理事	理事・小	理事・中
さいたま市	◎丹後 雅博 さいたま市・大宮西小		
	○中川 昇次 さいたま・片柳中 久松 丈記 さいたま・大宮北小 丹後 雅博 さいたま・大宮西小 寺内 啓容 さいたま・浦和中 金子 宣史 さいたま・上落合小 正田真由美 さいたま・七里中 藤本 往弘 さいたま・南浦和小 石田 成夫 さいたま・中尾小 中込 光統 さいたま・大谷口小 ◇田島 均 さいたま・辻小	才津 純子 さいたま・常盤小 飛知和朋子 さいたま・大宮西小 蓮見 隆代 さいたま・浦和大里小 日高 大介 さいたま・上落合小 駒込 祥子 さいたま・善前小 依田 淳子 さいたま・栄小 吉田 桂子 さいたま・東大成小 石井ゆかり さいたま・七里小 白岩 智哉 さいたま・大砂土東小 野島 由美 さいたま・指扇北小 河村 智佳 さいたま・片柳小 磯部 繁征 さいたま・片柳小	山口 史貴 さいたま・大宮北中 小林 幸子 さいたま・三橋中 豊田 純子 さいたま・大成中 山岸 啓介 さいたま・指扇中 八木橋麻子 さいたま・慈恩寺中 尾竹 朝子 さいたま・本太中 板倉香代美 さいたま・宮原中 鳥山多加子 さいたま・大久保中 高藤 友輔 さいたま・大宮南中 小口 稚聡 さいたま・与野東中
南 部 ブ ロ ッ ク	◎森田 直樹 上尾市・東中		
	北足立南 ○山根 淳一 戸田・新曾北小 山田 一文 戸田・美笹中 板橋 利行 川口・前川東小 加田 明 川口・原町小 伊藤 政久 川口・安行東小 小出喜代子 川口・領家中 岩田 直代 川口・鳩ヶ谷小 岩崎 良紀 朝霞・朝霞第五中 滝沢 和子 戸田・美谷本小 高田悠希子 戸田・新曾中 松井 一民 草加・谷塚小 中西 正春 志木・志木第二中 服部 方暢 新座・第五中 飯田 成子 朝霞・朝霞第五中 矢花 俊樹 蕨・北小 ◇吉田 賢宏 川口・戸塚小	高比良紀代美 戸田・芦原小 渡邊 敏史 蕨・中央小 梅津 一義 川口・飯塚小 田村 光隆 草加・松原小 門田 生世 志木・宗岡第三小 依田 祥子 新座・第四小 齋藤 彩乃 朝霞・朝霞第八小 隅田 菜月 和光・本町小	濱田 征臣 戸田・喜沢中 澤井 敦子 蕨・東中 羽鳥 弘次 川口・十二月田中 福澤 好子 草加・草加中 井上 佳代 志木・志木宗岡中 浅沼 夏菜 新座・第三中 磯 美夏子 朝霞・朝霞第三中 大森 晴海 和光・第二中
	北足立北 ○関野 千鶴 桶川・日出谷小 ◇馬場 有香 鴻巣・広田小 荒井 幸子 鴻巣・鴻巣西中 石塚 香代 鴻巣・吹上小 庄田 薫 鴻巣・屈巢小 大山 文子 鴻巣・赤見台中 大滝 知実 北本・東小 長峯絵里子 桶川・桶川西中 関口 竜平 上尾・上平中 木村 光江 上尾・瓦葺中	尾見 拓哉 上尾・大谷小 山田 成美 桶川・朝日小 塚越 結麻 伊奈町・小針北小 太田 典子 北本・西小 中島 重陽 鴻巣・鴻巣南小	大島 伸夫 上尾・大石中 津田理恵子 桶川・桶川東中 小野 東子 伊奈町・伊奈中 田中 和之 北本・北本中 大塚 祐由 鴻巣・鴻巣中
◎武藤 篤美 坂戸市・大家小			
西 部 ブ ロ ッ ク	入 間 ○鈴木勢津子 所沢・荒幡小 小峰 貞夫 坂戸・住吉中 武藤 篤美 坂戸・大家小 田中 晃 川越・東中 田中 俊一 所沢・松井小 ◇萩原 秀基 川越・霞ヶ関南小 嶋田恵美子 川越・霞ヶ関小 高橋 瑠美 川越・高階西小 新家子美知子 ふじみ野・大井小 五十嵐由里子 三芳町・唐沢小 安藤 栄信 川越・砂中 杉浦ゆうこ ふじみ野・駒西小 山中 浩一 川越・東中 鈴木 彩子 坂戸・桜中 森下 弘章 飯能・飯能西中 西宮 淳 毛呂山町・光山小 宇野 牧恵 入間・狭山小	及川美沙子 入間・東金子小 笹沼 穂 越生町・越生小 清水 梓 川越・霞ヶ関小 木藤 龍一 川越・霞ヶ関北小 島田 一恵 坂戸・浅羽野小 栄喜 寿美 狭山・南小 皆川 優花 鶴ヶ島・新町小 中川 千春 所沢・北秋津小 渡邊 美和 飯能・奥武蔵小 山田 悠紀 飯能・加治小 神山貴和子 日高・高麗川小 秋馬 里菜 日高・高根小 田口 小夏 富士見・富士見特支 梨本 綾香 ふじみ野・元福小 新井 光弘 三芳町・上富小	佐野 仁 入間・東金子中 山本 薫 毛呂山町・川角中 日山しのぶ 川越・川越第一中 黒川 美幸 川越・寺尾中 亀山 幸子 坂戸・坂戸中 三上 司朗 狭山・山王中 熊谷 里香 鶴ヶ島・藤中 常岡 幸夫 所沢・向陽中 高橋 七海 富士見・本郷中 斎藤めぐみ 三芳町・三芳東中

地区	常任理事	理事・小	理事・中
西部ブロック	比企 ○阿形寿和 東松山・野本小 西川洋充 東松山・高坂小 万里拓己 小川町・東中 羽島あゆみ 嵐山町・七里小 田島史絵 ときがわ町・明覚小 後藤雅史 川島町・川島中 池田恵理子 吉見町・東第一小 ◇二本 洋明 東松山・東中	富田純 小川町・小川小 寺山いつみ 滑川町・月の輪小 高橋靖子 鳩山町・鳩山小 島村富子 川島町・伊草小	渡辺薫 吉見町・吉見中 中村愛 滑川町・滑川中
◎濱名 博昭 本庄市・本庄東小			
北部	児玉 ○岡村和美 本庄・北泉小 田島明廣 神川町・神泉小 ◇大塚素嗣 本庄・共和小 二本利子 本庄・児玉中 豊浦友紀 本庄・本庄東小 内田千夏 美里町・大沢小	豊田純子 本庄・中央小 飯田理恵子 本庄・本庄東小 新井未来 本庄・金屋小 神尾浩一 上里町・上里東小 神尾篤 上里町・七本木小 小林玲子 美里町・東児玉小 内田千夏 美里町・大沢小 小林友里奈 神川町・青柳小 小林友里奈 神川町・渡瀬小	高橋京子 本庄・本庄東中 肥高雅美 本庄・本庄西中 森重利子 本庄・本庄南中 二本利子 本庄・児玉中 星野晴紀 上里町・上里中 並木好江 美里町・美里中 安藤友紀 上里町・上里北中 三宅光起 神川町・神川中
ブロック	大里 ○大谷裕紀 熊谷・玉井小 細井奈津子 熊谷・荒川中 平井倫 熊谷・成田小 古屋美恵子 深谷・花園小 榎本浩子 深谷・明戸小 斉藤優美 深谷・桜ヶ丘小 峯岸潤子 深谷・八基小 中村朋美 深谷・川本北小 清水裕子 深谷・明戸中 篠崎治美 深谷・川本中 和田志織 寄居町・男衾小 井出はる枝 寄居町・男衾中 ◇根岸由紀 深谷・岡部中	竹内彩 熊谷・中条小 飯田理恵子 熊谷・石原小 田中愛梨香 熊谷・吉岡小 矢代由喜 熊谷・別府小 宮下々実 深谷・深谷小 横塚久美子 深谷・上柴東小 武藤和美 深谷・榛沢小 小丸和香 深谷・岡部西小 吉田正 寄居町・桜沢小 井上結菜 寄居町・鉢形小	永井浩子 熊谷・三尻中 関根麗 熊谷・大幡中 吉田勝宣 熊谷・熊谷東中 吉田賢彦 熊谷・吉岡中 大竹清乃 熊谷・藤沢中 井上暢之 深谷・深谷中
秩父	○大澤伸一 秩父・荒川西小 加藤悦子 小鹿野町・小鹿野中 長橋寿子 小鹿野町・長若小 ◇中村直史 秩父・秩父第一中	須永美礼 小鹿野町・両神小 星野哲郎 皆野町・皆野小	福嶋淳 秩父・吉田中 赤岩菜美 秩父・秩父第二中 関根梓 長瀨町・長瀨中
◎中島 高広 加須市・大越小			
東部	北埼玉 ○中島高広 加須・大越小 山水明 羽生・東中 鳥越人美 羽生・新郷第二小 牛久智美 加須・大利根中 稲垣直人 羽生・東中 ◇甘楽 絃子 行田・長野中	横田唯 行田・泉小 坂詰和美 行田・桜ヶ丘小 伊藤弥栄 羽生・羽生南小 五十嵐美香 羽生・須影小 岡安沙枝 加須・加須小 林和子 加須・田ヶ谷小 金子愛子 加須・豊野小 吉澤友希 加須・加須南小	井手健仁 行田・埼玉中 佐藤勇貴江 行田・西中 岡戸美樹子 行田・行田中 小島容子 加須・昭和中 岩淵優子 加須・騎西中 川久保秀美 羽生・南中 安藤美子 羽生・西中
ブロック	埼玉葛 ○峯裕彦 越谷・東中 伊藤貴重 越谷・大澤北小 寺井進一郎 久喜・久喜東中 岡村勝成 三郷・彦糸小 清水和貴 三郷・高州東小 守田純一 三郷・吹上小 小林昭生 越谷・武蔵野中 伊藤裕介 越谷・中央中 鳥海奈津子 久喜・鷺宮西中 小林寿子 久喜・太東中 松村陽子 越谷・花田小 桐ヶ谷麻紀 吉川・中曾根小 平栗彰子 春日部・上沖小 石川清子 宮代町・百間中 小山健 松伏町・松伏小 ◇宮本元 越谷・東中	林友子 春日部・内牧小 中村恵三子 蓮田・蓮田中央小 川上京太 越谷・荻島小 金田彩子 八潮・潮止小 西隆広 久喜・桜田小 亀岡千紘 白岡・篠津小 服部一平 宮代町・百間小 佐藤諒一 幸手・吉田小 坂齊諒一 杉戸町・杉戸第二小 和泉安里 松伏町・松伏小 桐ヶ谷麻紀 吉川・中曾根小 佐藤慶子 三郷・吹上小	谷弘美 春日部・大沼中 野口照子 蓮田・黒浜中 新井美智 越谷・大袋中 栗原雅子 八潮・潮止中 小林寿子 久喜・太東中 吉村白岡 白岡・白岡中 石川清子 宮代町・百間中 関谷典子 幸手・幸手中 関口美弘 杉戸町・広島中 大内彩記子 松伏町・松伏第二中 山本夕菜 吉川・中央中 本間恵里加 三郷・早稲田中
埼玉大学	廣田和人 埼玉大附属小 小西悟士 埼玉大附属中	坂井貴文 埼玉大附属小 安藤健太 埼玉大附属小	吉田真梨 埼玉大附属中

専門部事務局

部	専門部事務局 (◎: 部長 ◇: 部事務局長)			
研究部	◎山田一文 戸田・美笹中 石井ゆかり さいたま・七里小 森田真以 さいたま・大谷場東小 服部方暢 新座・第五中 関口竜平 上尾・上平中 大山文子 鴻巣・赤見台中 長峯絵里子 桶川・桶川西中 田野順子 北本・東中 石塚香代 鴻巣・吹上小 久松丈記 さいたま・大宮北小	石塚香代 鴻巣・吹上小 尾見拓哉 上尾・大谷小 大島伸夫 上尾・大石中 二本洋明 東松山・東中 井手尾晋一 狭山・新狭山小 安藤栄信 川越・砂中 高野敏 所沢・椿峰小 鈴木彩子 坂戸・桜中	鴻巣・吹上小 上尾・大谷小 上尾・大石中 東松山・東中 狭山・新狭山小 川越・砂中 所沢・椿峰小 坂戸・桜中	古屋美恵子 深谷・深谷西小 根岸由紀 深谷・岡部中 星野哲郎 皆野町・皆野小 榎本浩子 深谷・明戸小 小山健 松伏・松伏小 平栗彰子 春日部・上沖小 甘栗 行田・長野中 中 温子 白岡・南中
事業部	◎久松丈記 さいたま・大宮北小			
編集部	◎板橋利行 川口・前川東小 ◇本多啓介 草加・草加中 杉原優華 和光・広沢小 宮澤直美 新座・陣屋小 阿武智子 吉川・三輪野江小 杉浦ゆうこ ふじみ野・駒西小	秋山真吾 さいたま・木崎小 利枝 さいたま・岸町小 伊藤裕介 三郷・彦糸小 濱田征臣 戸田・喜沢中 西宮淳 毛呂山・光山小 金山智子 川口・東本郷小		

埼玉県美術教育連盟会則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は、埼玉県美術教育連盟と称し、事務局を会長指定の学校に置く。
- 第 2 条 本会は、美術教育の振興を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 美術教育に関する調査研究、並びに調査研究の奨励・助成。
 - 2 講演会、講習会、研究協議会、展覧会、制作会等の開催。
 - 3 関係機関・団体との連絡。
 - 4 その他必要な事項。

第 2 章 組 織

- 第 4 条 本会は、埼玉県内小中学校の美術教育に関する教職員をもって組織する。

第 3 章 役 員

- 第 5 条 本会に次の役員を置く。
- 1 連 盟 長 1 名
 - 2 副連盟長 5 名
 - 3 常任理事 若干名
 - 4 理 事 若干名
 - 5 監 事 2 名
 - 6 幹 事 若干名
- 第 6 条 役員の仕事は、次のとおりとする。
- 1 連盟長は、本会を代表し、会務を総理し、各種会議等を召集する。
 - 2 副連盟長は、連盟長を補佐し、連盟長に事故ある時はその職務を代理する。
 - 3 常任理事は、常任理事会を構成し、会務の企画、執行するとともに、各地区と連絡の任に当たる。
 - 4 理事は、理事会を構成し、総会から委任された事項について審議決定するとともに、各班との連絡の任にあたる。
 - 5 監事は、会計を監査する。
 - 6 幹事は、庶務会計をつかさどる。
- 第 7 条 役員を選出は、次のとおりとする。
- 1 連盟長、副連盟長、監事は、理事会で選出する。
 - 2 常任理事は、各地区ごとに、小中学校 1 名を選出する。ただし、必要により若干名を増すことができる。
 - 3 理事は、各班ごとに小中学校各 1 名を選出する。
 - 4 常任理事、理事は兼ねることができる。

- 5 幹事は、連盟長が委嘱する。幹事のうち 1 名を事務局長とする。

- 第 8 条 役員の仕事は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。補欠役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

- 第 9 条 本会に顧問を置くことができる。

第 4 章 機 関

- 第 10 条 本会に、次の機関を置く。
- 1 総会 2 理事会 3 常任理事会
- 第 11 条 総会は、毎年一回開催する。ただし、必要により臨時に開催することができる。
- 1 総会では、次の事項について、審議決定する。
 - (1) 会務の報告ならびに決算。
 - (2) 事業計画ならびに予算。
 - (3) 会則の変更、その他必要な事項。
 - 2 総会は、必要により、理事会をもって、これにかえることができる。
- 第 12 条 理事会は、次の事項について審議する。
- 1 会務の報告ならびに決算。
 - 2 事業計画ならびに予算。
 - 3 会則の変更、その他必要な事項。

- 第 13 条 常任理事会は、次のことを行う。
- 1 各種原案の作成。
 - 2 総会、理事会決定事項の処理。
 - 3 その他必要な事項。
- 第 14 条 本会は、会務を処理するため、次の専門部を設ける。ただし、必要により臨時に専門委員会を設けることができる。
- 1 研究部 2 事業部 3 編集部

- 第 15 条 各専門部ならびに専門委員会の構成は理事会で定める。

第 5 章 会 計

- 第 16 条 本会の経費は、埼玉県連合教育研究会の配分金をもって充てる。

- 第 17 条 本会の会計年度は、4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

- 付 則 本会則は昭和 25 年 5 月 1 日から施行する。

本会則は昭和 50 年 5 月 14 日から改正施行する。

本会則は昭和 55 年 6 月 10 日から改正施行する。

本会則は平成 12 年 8 月 9 日から改正施行する。

本会則は平成 16 年 6 月 11 日から改正施行する。

令和元年度 事業概要

I 研究主題と方針

1 研究主題

きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～

2 活動方針

- (1) 本年度の研究テーマは「きらめく感性 つくりだす喜び ～未来をひらく授業づくり 『深い学び』の探求～」とする。
- (2) 子どもの心と力をどのように見取っていかを研究し、示していく。
- (3) 令和5年(2023年)の「関プロ大会」を見据えながら、「未来をひらく授業づくり」につながるような提案、目玉になるような提案を埼玉から発信できるよう準備していく。

II 活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

- 4月17日(水) 正副連盟長・事務局会議
[埼玉大教育学部附属小]
- 5月10日(金) 役員研修会(常任理事会)
[埼玉大教育学部附属小]
- 6月14日(金) 総会 [ときわ会館大ホール]
- 6月15日(土) 関プロ代表者会議
[新宿区立淀橋第四小]
- 8月6日(火)・7日(水)
第61回埼玉県造形教育大会
[埼玉大学教育学部附属小学校]
- 8月22日(木) 身障者福祉美術展中央審査
役員研修会(理事会)
[県障害者交流センター]
- 10月11日(金) 郷土展中央審査
[本庄市立本庄東小学校]
- 10月19日(土)・20日(日)
第61回身障者福祉美術展
【西部】[東松山市南地区体育館]
- 11月14日(木)・15日(金)
第59回関東甲信越静地区
造形教育研究大会群馬大会
[昌賢学園まえばしホール
(前橋市民文化会館)]
- 11月30日(土)・12月1日(金)
第54回郷土展中央展【北部】
[本庄市立本庄東小学校]

1月下旬 第60回埼玉県児童生徒美術展
[県下10会場]

2月4日(火) 正副連盟長・事務局長会議
[埼玉大教育学部附属小]

2月12日(水) 県美術展第12回中央展審査
[埼玉県立近代美術館]

2月14日(金) 役員研修会(理事会)
[埼玉県立近代美術館]

2月15日(土)～16日(日)
県美術展第12回中央展
[埼玉県立近代美術館]

2月16日(日) 県美術展第12回中央展表彰式

III 研究

研究テーマ

きらめく感性 つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり 「深い学び」の探求～

1 第61回埼玉県造形教育研究大会

(1) 趣旨

造形教育研究大会のPart1「授業実践研究会」では、県美連の研究テーマ(大会テーマ)及び追究観点①～③を受け、各分科会の研究の視点にそって提案される各地区の授業実践研究の事例をもとに、研究協議を行う。このことをとおして、児童生徒理解を深め、育まれる力を検証するとともに、豊かな授業づくりのための理念や手立てを学び合い、広めることで、図工・美術教育のさらなる充実を図る。

Part2「創造体験研修会」では、県美連の研究テーマ(大会テーマ)及び追究観点①～③を受け、各コースの題材設定の視点にそって提案されるワークショップ(創造的・開発的な実技研修)を行う。これをもとに、自らが創造的な体験をすることをとおして、児童生徒の心や育まれる力を実感するとともに、豊かな題材開発と授業づくりのための実践力を培う。

(2) 主催 埼玉県美術教育連盟

(3) 後援 埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会

(4) 期日 Part1: 令和元年8月6日(火)
Part2: 令和元年8月7日(水)

(5) 会場 埼玉大学教育学部附属小学校

(6) 日程

8月6日(火) 全体会&授業実践研究会

- ・受付 9:00~9:30
- ・全体会 9:30~10:00
- ・授業実践研究会
提案① 10:15~11:15
提案② 11:30~12:30

8月7日(水) 創造体験研修会

- ・受付 9:00~9:30
- ・研修会(前半) 9:30~12:00
- ・昼食 12:00~13:00
- ・研修会(後半) 13:00~15:30
- ・後片付け 15:30~16:00

(7) 内容

授業実践研究会

4つの分科会、8つの提案に分かれ、それぞれのテーマに基づいた授業実践発表を行い、児童生徒の学びを検証した。

創造体験研修会

5つの分科会に分かれ、それぞれの分科会のテーマに基づいた基礎的な実技研修として創造的・開発的な造形体験をワークショップ形式で行った。

IV 児童生徒美術展の開催

1 身体障害者福祉のための第61回埼玉県小・中学校児童生徒美術展覧会

- (1) 主催 社会福祉法人身体障害者福祉協会
共催 埼玉県美術教育連盟
- (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。
- (3) 中央審査
令和元年8月22日(木) 埼玉県障害者交流センターで地方審査特選作品750点の中から、特別賞68点が選ばれた。
- (4) 展覧会期・会場
会期 令和元年10月19日(土)・20日(日)
会場 東松山市南地区体育館

2 第54回郷土を描く児童生徒美術展

- (1) 主催 埼玉県
埼玉県校外教育協会
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会
共催 さいたま市教育委員会

埼玉県市町村教育委員会連合会

埼玉県美術教育連盟

- (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選作品約9000点・特選作品約1000点が選出された。
- (3) 中央審査
令和元年10月11日(金) 本庄市立本庄東小学校において地区審査で選ばれた特選作品約1000点の中から、埼玉県知事賞120点が選ばれた。
- (4) 展覧会期・会場・表彰式
会期 令和元年11月30日(土)・12月1日(日)
会場 本庄市立本庄東小学校
表彰式 11月14日(木) 埼玉会館において知事賞作品は展示され表彰される。
(小学校60点中学校60点)

3 第60回埼玉県小・中学校児童生徒美術展

- (1) 主催 埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟
- (2) 展覧会期・会場
会期 1月下旬~2月上旬
会場 県下10地区10会場

4 第60回埼玉県小・中学校児童生徒美術展 第12回中央展覧会

- (1) 主催 埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟
- (2) 展覧会期・会場
会期 令和2年2月15日(土)・16日(日)
会場 埼玉県立近代美術館
- (3) 地区審査
各地区で開催される第60回埼玉県小・中学校児童生徒美術展の出品作品のうち、特選作品の中から特に優れた作品を考慮し、展示公開する。
(全県で平面作品100点・立体作品100点)